

令和 6 年度

第六次青梅市生涯學習推進計画

進捗状況報告書

(令和 5 年度分事業)

青梅市生涯學習推進本部

はじめに

青梅市では、生涯学習施策を計画的に推進するため、令和元年度を初年度とする「第六次青梅市生涯学習推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んでいます。

この報告書は、「第六次青梅市生涯学習推進計画」の進捗状況について年次報告として作成したものです。

生涯学習の理念である、市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現に向けて、計画の総合的かつ横断的な推進を図ります。

令和6年10月

目 次

第1章

I	計画の概要	7
II	施策の展開	10
III	青梅市事業計画一覧	16

第2章

計画の進捗状況調査報告書		22
1	生涯学習の基礎づくり	24
(1)	乳幼児教育・家庭教育の充実	24
(2)	小・中学校教育の充実	25
(3)	家庭・学校・地域の連携	26
2	生涯学習の場と機会の拡充	29
(1)	施設の整備と有効活用	29
(2)	豊かに生きるための学習機会の充実	29
(3)	ともに生きるための学習機会の充実	34
(4)	健やかに生きるための学習機会の充実	36
(5)	暮らしやすい環境のための学習機会の充実	38
3	自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から	41
(1)	地域コミュニティ活動への支援	41
(2)	地域人材の育成と活用	43
4	学習情報提供と学習相談の充実	46
(1)	学習情報提供の充実	46
(2)	学習相談の充実	47
5	生涯学習推進体制の確立	48
(1)	推進体制づくり	48
(2)	基盤づくり	48

第1章

I 計画の概要

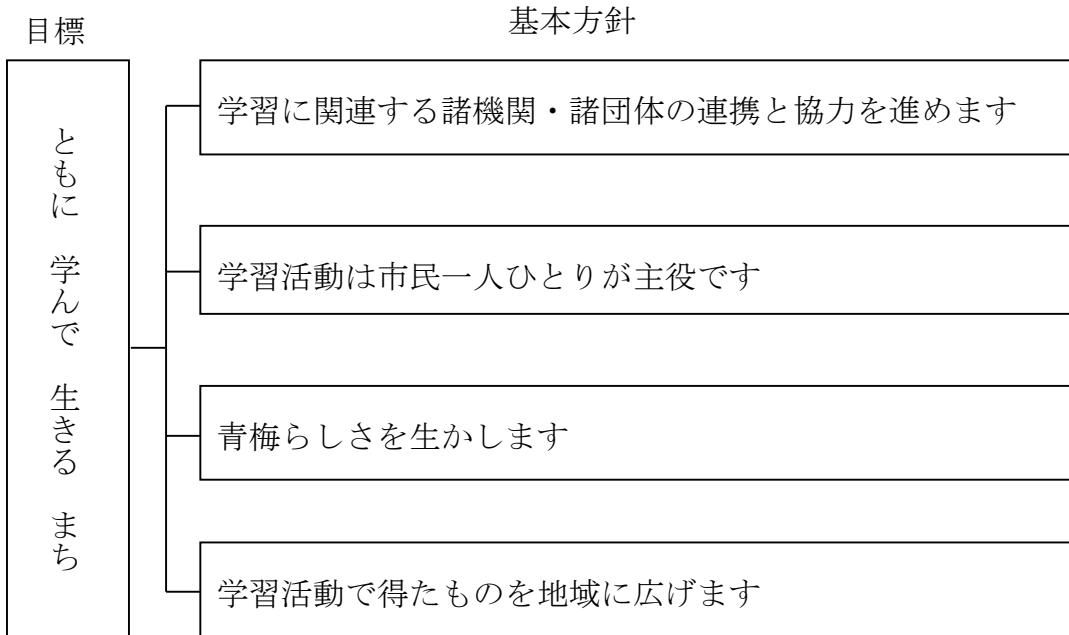
II 施策の展開

III 青梅市事業計画一覧

I 計画の概要

第六次青梅市生涯学習推進計画

1 生涯学習推進の目標と基本方針



市民が生涯を通じ、主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に生かしていくことができる「ともに学んで生きるまち」の実現を目指し、いつでも、どこでも、誰でもが学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進を図ります。

また、学習成果の総合的な発表の場や生涯学習の基盤となる施設の整備を図ります。

2 計画策定の趣旨

青梅市では、市民一人ひとりが生涯を通じて地域社会の中でともに学び・ともに教え合いながら、生きがいのある充実した生活を送ることができるような「生涯学習社会」を築くために、生涯学習推進計画を策定します。「ともに学んで生きるまち」を目指して、市と市民のパートナーシップをもとにした生涯学習のまちをつくるために、市が実施している生涯学習関連の諸事業を体系化するとともに、市内生涯学習関係機関団体、地域住民との連携・協働により、諸施策の効果的な展開を図っていきます。

3 計画の期間

令和元年度から令和5年度までの5年間とします。

この推進計画は、第6次青梅市総合長期計画（平成25年度から令和4年度まで）を上位計画とし、他の部門別計画とも整合性を図っていきます。

4 計画の指針

青梅市における生涯学習に関する施策の総合的・効果的な推進を図り、生涯学習に関する既存施策を総合的な観点から体系化するとともに、将来において展開する必要がある施策の考え方を示します。

5 計画の範囲

- (1) 生涯学習社会の形成に向けての行政の役割を明記するものですが、計画の推進に当たっては、生涯学習に関連する各種団体・機関等と連携を図りながら推進します。
- (2) 対象となるのは、教育、文化、スポーツのほか、趣味やレクリエーション、福祉、保健衛生、防災、まちづくり等、行政や各種団体・機関等で行う幅広い分野の学習事業とします。

6 生涯学習とは

生涯学習とは、市民一人ひとりが生涯にわたり、あらゆる機会に、あらゆる場所において主体的に行う学習活動の総称です。すなわち、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味等様々な場や機会において行う学習の意味で用いられ、学習の形態についても、個人学習や、公共機関等が行う講座・講演会、民間教育機関が行う講座、通信教育、企業や職業訓練施設等で行われる学習、グループ・サークル・団体活動の中で行われる学習など、多岐にわたります。

生涯にわたって学ぶという事は、ライフスタイルやビジネスを充実させるための知識学習、職業教育だけでなく、生きがいや心の豊かさに結びつきます。また、学習する向上心が地域の活性化をもたらし、学習活動を通してこそ、よりよい人間関係が生まれ、豊かで住みよい地域が実現されます。学習した人々が地域の担い手として地域づくりに参加し、学習の成果をまちづくりに生かしていくことが期待されています。

また、教育基本法では、「生涯学習の理念」という項目があり、「誰もが生涯のあらゆる場面で学習し、かつ学習した成果を生かすことができる社会」を実現しようという姿勢が明確に打ち出されています。

— スローガン —

「ともに学んでいきるまち」をめざして

O 応援します お互いに

M 学んで 教えて

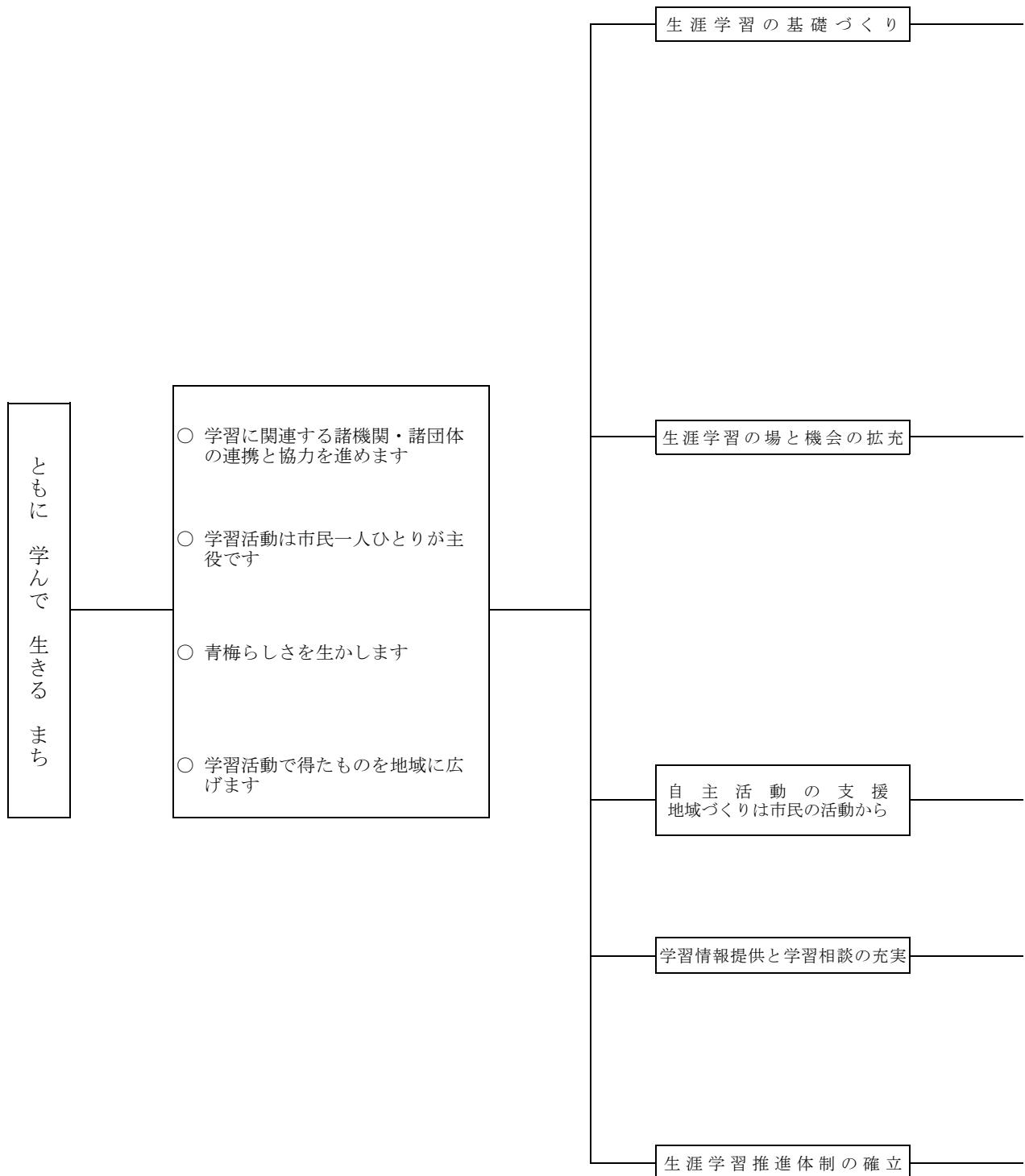
E エンジョイします

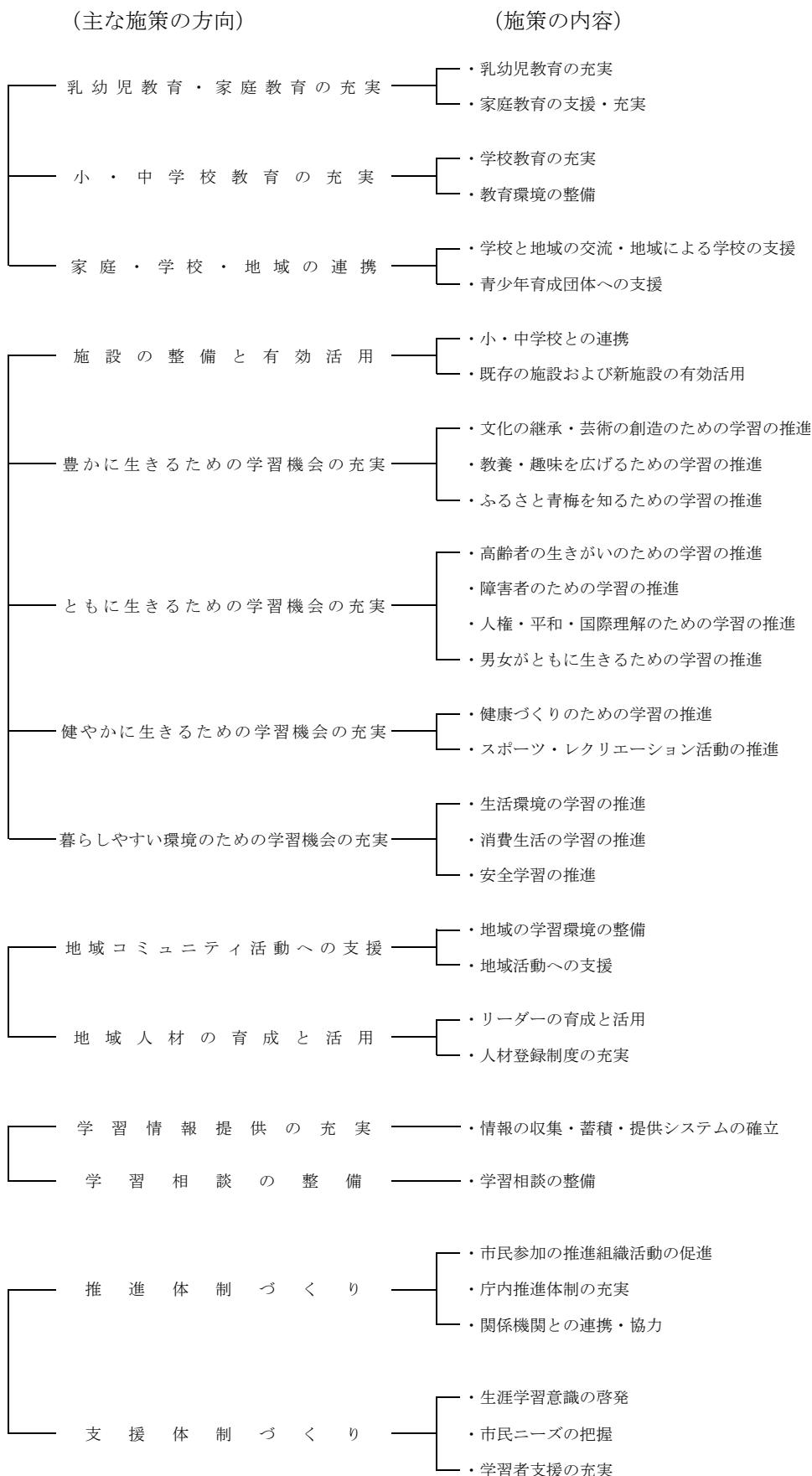
みんなで 楽しむ 生涯学習

II 施策の展開

1 計画の体系

(目標) (基本方針) (基本的施策)





2 基本的施策

- 1 生涯学習の基礎づくり
- 2 生涯学習の場と機会の拡充
- 3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から
- 4 学習情報提供と学習相談の充実
- 5 生涯学習推進体制の確立

1 生涯学習の基礎づくり

基本的な考え方

生涯にわたり自らが考え、創造性豊かな充実した人生を送るために、人間形成の基礎をつくる子どもの時期に、基本的な学力や自らを成長させようという意欲、生きる力、社会生活の基本的ルールなどを身につけることが大事です。個性豊かな子どもの健全な成長を願い、家庭・学校・地域が連携して子育て支援・教育の充実を図り、地域社会全体で行われるような環境を目指します。

子どもを取り巻く学習環境を見ると、少子化・核家族化の進展と同時に、家庭教育力・地域教育力の低下が叫ばれています。また、いじめ、不登校等、様々な問題が子ども達に重圧をかけてきています。このことから、各保育園で行っている子育て支援事業との連携や、小・中学校との連携を含めた子育て相談、家庭教育の機会の提供など、家庭教育への支援や地域での青少年関係団体活動への支援などを通して「生涯学習の基礎づくり」に努めます。

主な施策の方向

- (1) 乳幼児教育・家庭教育支援の充実
- (2) 小・中学校教育の充実
- (3) 家庭・学校・地域の連携

2 生涯学習の場と機会の拡充

基本的な考え方

市民が自主的に生涯にわたって学習し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、市民一人ひとりがその能力や個性を伸ばし、「いつでも・どこでも・誰でも」学べるよう、学習の場と機会の拡充に努めます。市は、市民が持っている知識や経験を生かせるよう、コーディネーターの役割を果たし、学習内容を充実させていきます。

また、新しく開館する青梅市文化交流センターでは、市民のアイデアや意見等に柔軟に対応できる運営体制を築くことを目指し、地域の人材を生かしたプロデューサーを配置します。さらに、インターネットの活用をはじめ、様々な媒体を利用した生涯学習に関する情報提供の充実に努め、市民の利便性の向上を図ります。

主な施策の方向

- (1) 施設の整備と有効活用
- (2) 豊かに生きるための学習機会の充実
- (3) ともに生きるための学習機会の充実
- (4) 健やかに生きるための学習機会の充実
- (5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

基本的な考え方

地域づくり・まちづくりは市民の着実な活動から始まります。団体・サークル等の自主活動を通じて、仲間とのふれあいが生まれ、人と人の関係が豊かになり、お互いに学び合い、教え合うような人間関係が形成されます。自主的な地域団体・生涯学習サークルの活動が活発になるよう応援するため、団体等の自主性を基本として、活動の場の提供や支援をしていきます。

また、生涯学習は本来行う事自体が楽しいものですが、学習の成果を地域社会に生かすことは、学習者にとって自己の成長を確認できるなど、大きな意味も持ちます。生涯学習を通じて得た学習の成果を、地域やボ

ランティア活動に生かし、市民同士が教え合い、学び合う環境を整備し、生涯学習が地域の市民の手で推進していく体制の確立を図ります。

主な施策の方向

- (1) 地域コミュニティ活動への支援
- (2) 地域人材の育成と活用

4 学習情報提供と学習相談の充実

基本的な考え方

市民一人ひとりの学びの意思・意欲を大切にするとともに、学習活動が活発に行われるためには、生涯学習情報を「いつでも・どこでも・誰でも」入手できることが求められています。

このことから、広報等の印刷物による学習や機会の場・方法などに関する情報をはじめ、インターネット等様々な媒体を利用して情報を提供し、生涯学習に関する情報を発信することで、市民の生涯学習を支援します。

主な施策の方向

- (1) 学習情報提供の充実
- (2) 学習相談の整備

5 生涯学習推進体制の確立

基本的な考え方

青梅市における生涯学習関連事業は、教育行政だけでなく、一般行政においても活発に行われています。市民の自主的な学習活動を効果的に支援していくために、現在各事業の担当課で独自に企画・実施されている生涯学習事業を、それぞれの事業の目的を大切にしながら、市民の生涯学習の推進という視点から捉え直し、「生涯学習推進本部」や「総合教育会議」などを通じて情報を共有し、相互に連携・協力関係を築いていくことが大切です。

また、各課の連携・協力関係を築くことで、類似の事業が重複して実施されることを避け、バランスよく効率的に事業を実施していくことが

できます。

さらに、学習の主体である市民の意見を生涯学習の推進施策に反映させていくことが大切であり、電子申請による講座企画等のアイデア受付機能を活用し、市民の意見にもとづく講座を実施する等、施策の充実を図ります。

また、市と市民が協力しながら施策を進めていくための情報交換や意見交換の場が必要です。このことから、市の推進組織である青梅市生涯学習推進本部と、学識経験者や生涯学習関係団体の代表者からなる青梅市生涯学習推進市民会議の連携・協力関係を推進し、生涯学習推進体制の充実を図ります。

主な施策の方向

- (1) 推進体制づくり
- (2) 支援体制づくり

III 青梅市事業計画一覧

No.	事業名	所管課等	頁
1 生涯学習の基礎づくり			24
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実			
1	プレママクラス（母親・両親）学級	子ども家庭センター	24
2	乳幼児健康相談	子ども家庭センター	
3	子育てひろば事業	子育て応援課	
4	子育て支援事業	子育て応援課	
5	家庭教育学級	社会教育課	
6	おはなし会	社会教育課（図書館）	
7	子ども読書活動推進事業講演会	社会教育課（図書館）	
8・9・10	ブックスタート事業	健康課・子ども家庭センター・社会教育課（図書館）	
(2) 小・中学校教育の充実			
11	特別支援学級の運営	学務課	25
12・13	教育相談機関の充実	指導室・学務課	
14	教育支援センターの充実	指導室	
15	情報教育の推進	指導室	
16	芸術・技術教育の支援	指導室	
17	スポーツ教育の振興	指導室	
18	教員研修	指導室	
19	教育研究支援	指導室	
20	教科指導等の充実	指導室	26
21	進路指導の充実	指導室	
22	生徒指導の充実	指導室	
23	学校防災訓練	青梅市立第二中学校	
(3) 家庭・学校・地域の連携			
24・25	PTAの活動への支援	市民センター・社会教育課	26
26・27	青少年委員活動	市民センター・社会教育課	
28	協働事業の支援	市民活動推進課	
29	青少年問題協議会	子育て応援課	
30・31	青少年対策地区委員会事業への支援	市民センター・子育て応援課	
32	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	社会教育課	28
33	放課後子ども教室	子育て応援課	
34	職場体験事業	社会教育課（図書館）	
35	図書館と学校図書館との連携事業	社会教育課（図書館）	
36・37	地域人材の活用	指導室・社会教育課	
2 生涯学習の場と機会の拡充			29
(1) 施設の整備と有効活用			
38・39	学校施設開放	スポーツ推進課・社会教育課	29
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実			
40	多摩川1万人の清掃大会	清掃リサイクル課	29
41	河川清掃活動援助	清掃リサイクル課	
42	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者支援課	
43	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者支援課	
44	敬老会	高齢者支援課	
45	観梅市民まつり	シティプロモーション課	
46	後援等協力事業	商工業振興課・シティプロモーション課	
47	昭和レトロ商品博物館	商工業振興課	
48	青梅赤塚不二夫会館	商工業振興課	30
49	シイタケ栽培講習会	農林水産課	
50	青梅市農業祭	農林水産課	
51	炭焼き体験教室	農林水産課	

	No.	事業名	所管課等	頁
	52	成人式	社会教育課	30
	53	掌理団体定期演奏会等	社会教育課	
	54	市民大学	社会教育課	
	55	農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	社会教育課	
	56	豊かに生きるための教室・講座等の実施	社会教育課	
	57	16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	社会教育課	
	58	中央図書館講座等	社会教育課(図書館)	
	59	中央図書館での工作及び手芸教室	社会教育課(図書館)	
	60	中央図書館での上映会	社会教育課(図書館)	
	61	展示・普及事業	文化課(郷土博物館)	
	62	文化財の調査・保護・活用	文化課(郷土博物館)	32
	63	文化財の普及・啓発	文化課(郷土博物館)	
	64	吉川英治記念館の運営事業	文化課(吉川英治記念館)	
	65	展示・普及事業	文化課(美術館)	
	66	明るい選挙推進講演会	選挙管理委員会	
	67	親子農業体験会	農業委員会	33
	68	蛍を見るタペ	シティプロモーション課	
	69・70	生涯学習フェスティバル(釜の淵新緑祭)	社会教育課・文化課	
(3) ともに生きるための学習機会の充実				
	71	国際交流活動支援	秘書広報課	34
	72	通訳ボランティア	秘書広報課	
	73	平和の写真展の開催	市民安全課	
	74	男女平等講座の開催	市民安全課	
	75	女性の就業支援	市民安全課	
	76	老壯大学	市民センター	
	77	社会を明るくする運動	地域福祉課	
	78	家庭介護DVDの貸出し	高齢者支援課	
	79	認知症サポーター養成講座	高齢者支援課	
	80	家族介護教室	高齢者支援課	
	81	手話講習会事業	障がい者福祉課	35
	82	点字図書給付事業	障がい者福祉課	
	83	身体障がい者自動車運転教習事業	障がい者福祉課	
	84	相談支援事業	障がい者福祉課	
	85	意思疎通支援事業	障がい者福祉課	
	86	青梅市障がい者サポートセンター事業	障がい者福祉課	
	87	中等度難聴児発達支援事業	障がい者福祉課	
	88	ともに生きるための教室・講座の企画運営	社会教育課	
	89	生涯学習まちづくり出前講座	社会教育課	
	90	国際理解講座	青梅佐藤財団・社会教育課	
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実				
	91	介護予防講演会	高齢者支援課	36
	92	介護予防教室	高齢者支援課	
	93	おうめ健康まつり	健康課	
	94	健康教育	健康課	
	95	健康相談	健康課	
	96	おうめ健康塾	総合病院管理課	
	97・98	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	スポーツ推進課・社会教育課	37
	99	各種体操教室	スポーツ推進課	
	100	青梅マラソン大会	スポーツ推進課	
	101	有酸素運動普及事業	スポーツ推進課	
	102	スポーツ・レクリエーションフェスティバル	スポーツ推進課	
	103	市民体育大会	スポーツ推進課	
	104	奥多摩渓谷駅伝競走大会	スポーツ推進課	
	105	屋内温水プール開放事業	スポーツ推進課	

	No.	事業名	所管課等	頁
	106	東京2020大会に向けた気運醸成事業	スポーツ推進課・社会教育課	38
(5) 著らしやすい環境のための学習機会の充実				
	107	広聴活動	市民安全課	38
	108	交通公園日曜映画教室	交通政策課	
	109	交通公園交通安全教室	交通政策課	
	110	交通安全講習会	交通政策課	
	111	セーフティ教室（交通事故再現方式）	交通政策課	
	112	専門相談事業	市民安全課	39
	113	パネル展等（消費者知識習得・被害防止）	市民安全課	
	114	消費者相談	市民安全課	
	115	消費生活講座等	市民安全課	
	116	市民のくらし展	市民安全課	
	117	環境月間	環境政策課	
	118	親水事業	環境政策課	
	119	ヤマメの飼育体験教室	環境政策課	
	120	動物愛護週間	環境政策課	
	121	フードドライブ	清掃リサイクル課	
	122	ごみ処理施設見学会	清掃リサイクル課	40
	123	市内一斉美化デー	清掃リサイクル課	
	124	小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスター&キャラクターレースコンクール	清掃リサイクル課	
	125	ごみ減量講座	清掃リサイクル課	
	126	梅の里再生に関する学びの機会の提供	梅の里再生担当	
	127	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	社会教育課	
	128・129	護美拾い合戦	清掃リサイクル課・スポーツ推進課	
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から				
(1) 地域コミュニティ活動への支援				
	130	ぶらっとフォーム推進ワークショップ	企画政策課	41
	131	総合防災訓練	防災課	
	132	防災ハンドブックの更新・配布	防災課	
	133	市民活動災害補償制度	市民活動推進課	
	134	自主学習グループ支援	市民センター	
	135	支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	市民センター	42
	136	環境美化大会	清掃リサイクル課	
	137	資源回収の奨励	清掃リサイクル課	
	138	地区市民運動会等支援	スポーツ推進課	
	139	総合文化祭	社会教育課	
	140	クリーン活動	青梅市立第一中学校	
	141	多摩川1万人清掃活動	青梅市立第一中学校	
	142	地域防災訓練	青梅市立第二中学校	
	143	地域清掃	青梅市立第二中学校	
	144	自治会運動会への参加	青梅市立第二中学校	
	145	多摩川1万人の清掃大会への参加	青梅市立第二中学校	
(2) 地域人材の育成と活用				
	146	防災リーダーの育成	防災課	43
	147	子ども会ジュニアリーダー講習会	市民センター	
	148	子ども会育成指導者講習会	市民センター	
	149	地域の特性を生かした事業	市民センター	
	150	緑地管理ボランティア	公園緑地課	
	151	介護予防リーダー養成講座	高齢者支援課	
	152	シルバーマイスター制度	高齢者支援課	44
	153	吹上しょうぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	シティプロモーション課	
	154	青梅市森林ボランティア育成講座	農林水産課	

	No.	事業名	所管課等	頁
	155	スポーツ推進委員研修	スポーツ推進課	44
	156	青少年リーダー育成研修会事業	社会教育課	
	157	講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	社会教育課	45
	158	芸術文化奨励賞	社会教育課	
	159	おはなし学習会	社会教育課（図書館）	
	160	絵本のべんきょう会	社会教育課（図書館）	
	161	合同企業説明会 in 青梅	商工業振興課・青梅商工会議所	
4 学習情報提供と学習相談の充実				46
(1) 学習情報提供の充実				
	162	「広報おうめ」への行政情報等掲載	秘書広報課	46
	163・164	市ホームページへの行政情報等掲載	秘書広報課	
	165	土砂災害ハザードマップの作成	防災課	
	166	ジェンダー平等情報紙	市民安全課	
	167	市民センターだよりの発行	市民センター	
	168	青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	課税課	
	169	生涯学習だよりの発行	社会教育課	
	170	社会教育事業の学校への周知	社会教育課	
	171	図書館報の発行	社会教育課（図書館）	
	172	ブックリストの配布	社会教育課（図書館）	
	173	分館図書館だよりの発行	社会教育課（図書館）	
	174	生涯学習相談	社会教育課	47
5 生涯学習推進体制の確立				48
(1) 推進体制づくり				
	175	職員研修受講支援	職員課	48
	176	生涯学習推進本部	社会教育課	
	177	生涯学習推進市民会議	社会教育課	
	178	生涯学習推進本部	社会教育課	
(2) 基盤づくり				
	178	市民企画講座の募集	社会教育課	48
	179	アンケートの実施	社会教育課	
	180	学習支援体制の構築	社会教育課	

第2章

計画の進捗状況調査報告書

計画の進捗状況調査報告書

調査内容 事業内容と進捗状況

1 令和4年度取組状況

2 担当課評価

評価記号	評 価	評 価 基 準
◎	順調である	<ul style="list-style-type: none">効果的に優れた取組を行った大きな成果を上げた課題や問題点は一つもない
○	おおむね順調である	<ul style="list-style-type: none">効果的な取組を行った一定の成果を上げた大きな課題や問題点はない
△	一部困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none">取組を行った多少の成果を上げた課題や問題点がある
×	困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none">取組を行わなかった取組を行ったが成果は上がらなかった大きな課題が残った
—	事業終了 隔年実施 中止	・新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

事業計画	事業数	◎	○	△	×	—
1 生涯学習の基礎づくり	36	0	33	0	0	4
(1)乳幼児教育・家庭教育の充実	10	0	9	0	0	1
(2)小・中学校教育の充実	12	0	11	0	0	2
(3)家庭・学校・地域の連携	14	0	13	0	0	1
2 生涯学習の場と機会の拡充	92	1	78	4	1	8
(1)施設の整備と有効活用	2	0	2	0	0	0
(2)豊かに生きるための学習機会の充実	31	1	23	2	0	5
(3)ともに生きるための学習機会の充実	20	0	17	2	1	0
(4)健やかに生きるための学習機会の充実	16	0	16	0	0	0
(5)暮らしやすい環境のための学習機会の充実	23	0	20	0	0	3
3 自主活動の支援	32	1	25	0	0	5
(1)地域コミュニティ活動への支援	16	1	10	0	0	4
(2)地域人材の育成と活用	16	0	15	0	0	1
4 学習情報提供と学習相談の充実	13	0	12	0	0	1
(1)学習情報提供の充実	12	0	11	0	0	1
(2)学習相談の整備	1	0	1	0	0	0
5 生涯学習推進体制の確立	6	0	6	0	0	0
(1)推進体制づくり	3	0	3	0	0	0
(2)基盤づくり	3	0	3	0	0	0
合 計	179	2	154	4	1	18
割 合 (%)	100	1.1	86.0	2.2	0.6	10.1

基本的施策

1生涯学習の基礎づくり

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	こども家庭センター	1 プレママクラス(母親・両親)学級	初産の妊婦とその夫を対象に安心して出産・子育ての準備ができるように学び、親となる心構えを伝え、妊娠中の不安を解消します。	プレママクラス 年6コース 延べ参加者数 110人 両親学級(平日) 5回 49人 両親学級(土曜日) 5回 109人 次年度目標:両親学級では、妊娠・出産、育児への理解を深め、父親になるための自覚を促し、夫婦で協力して取り組んでいくために必要な知識を提供し、育児力の向上と育児不安の解消を図る。また、夫婦で妊娠中の悩みや不安を共有しお互いがサポートできるようになることを目的とする。	○	・妊娠届出時や母親学級に参加希望されなかった方に、沐浴の動画の視聴を案内した。 ・赤ちゃんのいる生活をイメージしてもらい、参加者による意見交換など有意義な時間を持てた。 ・沐浴、着替え等、実技指導を行った。 ・精神疾患等のある妊婦に対し、個別対応を実施した。
	こども家庭センター	2 乳幼児健康相談	健康・栄養・歯科および育児に不安がある乳幼児に対し、小児科医師等が専門的な立場から適切な指導助言を行い、保護者の育児を支援します。	乳幼児健康相談 年12回 相談件数 196件 経過観察健康診査 年12回 相談件数 268件 次年度の目標:母親の育児に対する不安に寄り添い、助言指導を行う。また、心配な妊娠婦に対しては、継続的な支援を行う。	○	・昨年度も一昨年度と比べて利用者は増加したが、更に昨年度に比べ、相談件数が乳幼児健康相談で約1.14倍、経過観察健康診査で約1.13倍増加した。 ・乳幼児の発育発達や母親の育児不安等に寄り添うことができた。
	子育て応援課	3 子育てひろば事業	親子の遊びの場と交流の場を提供し、子育てに関するなど日々的で身近な問題について、保護者・子どもから相談を受け、話し相手になります。また、啓発事業を実施します。	・子育て支援センター・東青梅市民センター内「おひさま広場」、河辺市民センター内「トイトイトイ」、文化交流センター内「にこにこ」、下長瀬自治会館「とことこ」の他、13保育所で実施した。 ・身近な地域に子育て中の親子が参加できるふれあいの場を提供した。 ・育児講座を開催。 ・親子参加行事を開催。 ・相談業務を行った。	○	育児講座などの実施や、子育て中の保護者へ情報の提供を行うとともに、相談業務で子育てに関する相談を受け、子育て中の保護者の不安を解消することができた。
	子育て応援課	4 子育て支援事業	市民センターにおいて、子育てと子どもの健やかな成長を支援する場を提供するとともに、講座等を行います。	・市内の市民センターで事業を実施した。 ・手遊び型の事業では和室や会議室などで、絵本や積み木などをを使った遊びを行った。 ・体育型では体育館でボールや縄跳びなどをを使った遊びを行った。 実施回数 244回 延べ参加人数 2,679人 ・同年齢の乳幼児とその保護者へ、子育て支援講座「親子スキンシップ教室」と体験型イベント「あつまれ！0・1・2・3ちびっこ☆ランド」を実施した。 延参加者数 903人	○	市民センターにて行うことにより、市民が気軽に利用できる子育ての場を提供することができた。また、会場に講師を派遣し、初めての利用者にも利用しやすい雰囲気を作ることができた。 「親子スキンシップ教室」等では、保護者に対し、乳幼児の知性・感性を育て、人格形成を図る技術の会得の機会を提供することができた。
	社会教育課	5 家庭教育学級	乳幼児から高校生を持つ親を対象に、家庭教育に関する様々なテーマで開催します。	家庭教育講演会 ・第1回 悩んでいませんか？学校でのお困りごと～子どもや先生との上手な関わり方～ 実施日 7月9日 参加人数 27人 ・第2回 思春期って、どんな時期？～子どもの心に寄り添うポイント～ 実施日 9月16日 参加人数 21人 ・第3回 がまんする力はどのように育つか 実施日 3月10日 参加人数 46人 今後も共通の目的を持った仲間と出会える会場に集まる面对面形式と気軽に参加できるオンラインを活用した形式を活用し、それぞれの特性を活かした講演会を開催することで参加者を増やしていきたい。また、アンケートなどからニーズに添った内容で講師を選定し開催したい。	○	その時期に話題になっているテーマを選び、3回の講演会を計画し、参加者の評価も良かった。3回のうち2回で対面とオンラインでのライブ配信を同時に実行ハイブリッド形式で開催し、会場を選択できるようにして参加しやすい環境を作った。
	社会教育課(図書館)	6 おはなし会	絵本の読み聞かせやおはなしの語りなどを行います。	4月1日から3月24日まで延べ222回、中央図書館・市民センター・小学校でおはなし会を実施した。 延べ参加人数3,524人 6年度は、各事業を継続するとともに、内容の充実を図る。	○	おはなし会事業を実施し延べ3,524人の参加者を得ることができた。
	社会教育課(図書館)	7 子ども読書活動推進事業講演会	子どもの読書活動を推進するための講演会などを実施します。	子ども読書活動推進事業講演会「長谷川まり氏講演会」 11月18日 参加人数64人 6年度は、講演会事業を継続し、子どもの読書活動への理解を啓発する。	○	47人の参加者を得ることができ、子どもの読書活動を啓発することができた。
	こども家庭センター	8 ブックスタート事業	乳幼児健診時において、希望する保護者に対し、絵本の読み聞かせ等の相談とブックスタート・リーフレットの配布を実施します。	おおむね生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ機会を提供する「こにちは赤ちゃん」事業で、ブックスタート事業による絵本を配布した。 対象件数 556件 絵本配布数 540件 次年度の目標:生後4ヶ月までの赤ちゃんを全戸訪問する「こにちは赤ちゃん事業」で、絵本とブックスタート・リーフレットを配布した。引き続き絵本を介して保護者と乳児が触れ合うきっかけを作っていく。	○	絵本により、乳児とその保護者が絵本を介してゆっくり向き合い、心触れ合う一時を持つきっかけづくりができた。 また、乳児のいる家庭に絵本を配布し、乳児とその保護者が絵本を介してゆっくり向き合い、心触れ合う一時を持つきっかけづくりをすることができた。
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	子ども家庭支援課	9	こども家庭センターへ移管。		—	
	社会教育課(図書館)	10	健康課との共催で、乳幼児に対する絵本の配布と、IV月5日～3月6日までの延べ18回、乳幼児健診時において、絵本の紹介とブックスタート・リーフレット「あかちゃんといつしょに」の配布を行った。中央図書館で行う乳幼児向けおはなし会の案内も行った。 延べ参加人数 902人	○	乳幼児の保護者に対し、図書館利用を啓発することができた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（2）小・中学校教育の充実	学務課	11 特別支援学級の運営	児童・生徒の障害に応じたきめ細かな教育を実施していくため、教育環境の整備を図ります。特別支援学級設置校に介護員を配置します。	・教育環境の整備 学習支援、課題改善のための教材などの備品を購入し教育環境の整備を図った。引き続き必要な備品等を購入していく。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)において、児童・生徒の学校生活および学習活動の補助ならびに教員の教育活動を支援するために、児童・生徒数に合わせ配置した(小学校36人、中学校23人)。次年度も児童・生徒数に合わせ適正に配置していく。	○	・教育環境の整備 備品等の購入により教育環境の整備を進めているため。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)に在籍する児童・生徒数に合わせ介護員を配置し、児童・生徒への指導の充実を図っているため。
	指導室	12	1 教育相談所 幼児・児童・生徒や保護者から、学校生活や家庭における問題、悩みについて相談に応じ、援助・助言を行います。 2 青少年相談室 青少年や保護者から、生活指導や性格、行動等の問題、悩みの相談に応じ、青少年等の非行防止と健全育成を図ります。 3 スクールソーシャルワーカーおよび心理相談員の派遣などにより、青梅市公立学校相談室と教育相談所等の連携を図ります。	3 9月に学校教育相談推進協議会を開催し、教育相談所相談員と学校の教育相談担当との連携を図った。	○	・学校教育相談推進協議会の開催により、学校教育相談についての理解を深めるとともに、学校と教育相談所との連携を深めた。
	学務課	13	教育相談機関の充実	1 教育相談所 いじめ問題対策、要保護児童対策等の会議に教育相談所の職員が委員として出席し、連携を図った。 ・相談所における来所相談件数は年間630件で電話相談は28件。面談は、保護者2,917回、子供1,305回で合計4,222回行った。相談内容が複雑化、困難化しているが、適切に対応した。引き続き、保護者のニーズに寄り添った対応を行う。 2 青少年相談 相談内容を確認し、東京都教育相談センター等、関係諸機関に繋いだ。	○	・各種会議に教育相談所の職員が委員として出席し、各関係機関との連携が図られているため。 ・相談件数、相談回数は昨年度より減少したが、困難なケースは増加している。教育相談所内研修等により心理相談員の資質を高めることにより、相談者のニーズに合わせた適切な対応ができるため。 ・青少年相談については、適切な機関へ繋いでいるため。
	指導室	14 教育支援センターの充実	1 ふれあい学級 不登校児童・生徒に対し、生活習慣の確立および学習等の援助を行い、在籍校への復帰を支援します。 2 外国人児童・生徒学級 外国人児童・生徒および帰国児童・生徒に対し、日本語の指導を行い、安心して学校生活が送れるよう援助します。	1 教育支援センター(ふれあい学級) 在籍校との連携を図りながら不安や悩みについての教育相談や習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、施設見学や調理実習(校外学習)を各1回実施した。 2 外国人児童・生徒学級 在籍校において、児童9人にに対し通訳等の支援を週2回の指導を実施した。 外国人児童・生徒学級において、9名に対して指導した。	○	保護者の不安な気持ちに寄り添い、事前の面談の充実や体験活動の充実を図った。また、児童・生徒の実態に応じて支援ができるよう、在籍校との情報共有を密にした。 日本語の指導をとおし、学校生活をサポートした。
	指導室	15 情報教育の推進	児童・生徒の情報活用能力を育成し、確かな学力の向上を図るために、教科指導におけるICTの活用を推進します。	ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の推進を図った。 情報教育推進委員会を年間3回開催し、授業におけるICTの活用方法について情報交換を行った。また、市指定のICT教育推進校の取組成果の発表・情報共有等を行った。	○	ICT環境の充実を図り、ICTを活用した授業改善を行った。
	指導室	16 芸術・技術教育の支援	「小学校造形作品展」、「中学校美術作品展」、「中学校技術・家庭科作品展」を開催し、児童・生徒の豊かな心情の陶冶や芸術・技術能力の向上を図るとともに、広く市民に教科への理解を得ます。	児童・生徒が授業で制作した作品を、小学校はS&Dたまごセンター、中学校は青梅市立中央図書館を会場に、期間を限定して展示を行った。開催期間中は、広く一般に公開した。	○	小学校は、開催規模や実施期間を適切に検討し、充実した行事とすることことができた。 中学校美術作品展、技術家庭科作品展については、平日を含め、多くの方に来場していただき、学習の成果を披露することができた。
	指導室	17 スポーツ教育の振興	「中学校陸上競技大会」「中学校球技大会」「中学校駅伝大会」の開催を通して、精神力や体力を磨けるよう支援します。	・「中学校陸上競技大会」令和元年度終了 ・「中学校球技大会」令和元年度終了 ・「中学校駅伝大会」令和元年度終了 ・令和2年度は新型コロナウィルスの影響により中止。 ・令和3年度に当行事の廃止を決定。	—	実施していないため、評価せず。
	指導室	18 教員研修	教員の資質や能力の向上を図るため、職層や教職経験に応じた研修、専門的研修を実施します。	・校長研修 1回 ・副校長研修 1回 ・教務主任会 3回 ・生活指導主任会 11回 ・若手教員育成研修1年次 10回 ・若手教員育成研修1年次・1日研修1回 ・若手教員育成研修2年次 3回 ・若手教員育成研修3年次 3回 ・中学校進路指導主任会 2回 ・新任主幹教諭研修 1回 ・人権教育研修 5回 ・学校教育相談研修 1回 ・情報セキュリティ研修(未受講者対象研修) 3回 ・情報セキュリティ研修(管理職等対象研修) 2回 ・特別支援教育理解研修 1回 ・教育経営研修 1回 ・情報教育推進委員会 3回 ・水泳指導研修 1回 ・教育課題研修 2回 ・中堅教諭等資質向上研修Ⅰ 8回 ・特別支援教育コーディネーター研修 1回 ・外国語教育担当者連絡会 2回 ・柔道(武道)研修 1回	○	新型コロナウィルス感染症が5類感染症に移行されたため、集合型の研修を基本とし開催した。 職層や教職経験に応じた研修等を実施することにより、教員の資質向上が図れた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
～2～ 小・中学校教育の充実	指導室	19 教育研究支援	教育課題の解決、教科指導法の改善等の研究を支援し、より良い学校教育を目指します。 ・研究指定校、教育研究会、校内研修に対する支援	・研究指定校等への支援 小・中学校合わせて5校の研究を支援した。 ・教育研究会への支援 ・校内研修に対する支援	○	各校の研究を支援し、教員の資質向上が図れた。また研究指定校の発表および成果を全小・中学校で共有できた。
	指導室	20 教科指導等の充実	1 新学力向上5ヵ年計画にもとづき、「継続」「定着」「追究」をキーワードに、指導の充実を図ります。 2 「青梅市いじめ防止マニュアル」およびいじめ問題対策委員会調査部会からの提言にもとづき、いじめの根絶に向け、人権教育・道徳教育を充実します。 3 外国人英語指導助手(AET)を活用し、小・中学校の英語教育・国際理解教育を推進します。 4 地域社会・地域環境の理解を深め、社会の一員としての自覚を育てます。 5 児童・生徒の学力向上を図るため、市民センター等を拠点として、民間委託の指導者による土曜日補習教室を実施します。	学力向上推進委員会にて、学力向上5ヵ年計画について協議し、「継続」「定着」「追究」というキーワードのもと、進捗状況や取組状況等について協議した。 各校の学力向上推進プランの実現に向けて、授業改善を図るための方策について協議した。 人権教育推進委員会を年5回・道徳教育推進委員会を年1回実施し、人権教育・道徳教育の推進に努めた。人権教育推進校の発表について、市内全小中学校で共有した。 年2回外国语教育担当者連絡会を開催し、小中学校間の連携や授業改善について協議した。 青梅学推進委員会を開催し、地域の人材や地域の環境について理解を深めるための取組について協議・研修を行った。 中学3年生向け高校受験対策事業「スタディ・アシスト」を民間業者に委託して実施した。	○	学力向上施策について、教員の理解が深まった。また、ICTの活用を含め、児童・生徒の学習意欲を高めるための手立てについて協議し、授業改善を図ることができた。 人権教育推進教員が中心となり、各校において人権教育についての教育を充実させた。 小中学校間の連携について円滑化を図ることができた。またAETとの綿密な打ち合わせを行い、国際理解教育の推進を図った。 「青梅学」を各校の教育課程に位置付け、それぞれの地域の特性を生かした授業が実施された。 民間業者へ委託したスタディ・アシスト事業が好評で、昨年度よりも多くの生徒が受験勉強に励んだ。各々の生徒に成績の向上が見られたとともに、多数の参加者が志望校へ合格した。
	指導室	21 進路指導の充実	生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育てます。	キャリアパスポートを作成し、総合的な学習の時間等を活用して、児童・生徒が自己の将来について考える機会を設定した。また、中学校では、第2学年で職場体験学習や職業講話を実施した。	○	キャリアパスポートの活用や職場体験・職業講話の実施等により、児童・生徒に自己の将来や生き方について考えさせ、意識を向上させることができた。
	指導室	22 生徒指導の充実	豊かな人間性と社会性を育成するために、児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高め、公共心をはぐくみます。	生活指導主任会(小・中学校合同)を年間5回実施し、情報交換や連携を深めるとともに、第3回には講師を招聘し、生活指導への理解を深めた。 中学校生活指導主任連絡協議会を年間6回実施し、警察や登校支援室等関係機関との情報交換や連携について協議した。	○	生活指導主任会や中学校生活指導主任連絡協議会での情報交換や他機関との連携を図りながら、豊かな人間性と社会性を育む取組を推進することができた。
青梅市立第二中学校	23 学校防災訓練	地域の消防団や消防署と連携し、実践的な防災訓練を行い防災の意識を高めます。	地域の消防団や消防署と連携し、実践的な防災訓練を行い防災の意識を高めます。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】地域の方との連携した防災訓練を行い、防災意識を高める。	—	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。
市民センター	24 PTAの活動への支援	会議室の提供、用具・備品等の貸出などを行います。 ・小・中PTAが主催する講演会や研修視察等に対する援助を行い、子どもたちの健全な成長を目指して、親と教師が協力して家庭・学校・地域の教育力の向上を図ります。	PTAが主催する事業に会議室を提供するなどの支援を実施した。(梅郷C) ・PTAが主催する会議等に会議室の提供を行った。(今井C) ・PTAが主催する会議等に会議室の提供を行った。(大門C)	○	PTAへの会議室の提供などの支援体制は継続して実施したため。	
社会教育課	25		・小学校・中学校のPTAへ感謝状の贈呈や総会会場確保などをを行い活動を支援した。 引き続き支援可能な範囲での支援を行っていく。	○	PTA活動の支援を継続的に実施したため。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	26 青少年委員活動	青少年が地域で健やかに成長できるよう、学校等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施した。(新町C) ・青少年委員の協力のもと、青少年の指導育成事業として、児づくりや星空観察を行った。また、三田地区と共同で講演会を開催しウクライナから避難された方を講師にお招きして講演をしていただいた。地域の安全を守る会の構成団体として地域のパトロールに参加した。(梅郷C) ・青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施した。(東青梅C) ・青少年対策第10支会地区委員による、ジャガイモ掘り体験、チヨークアート教室、ポツチャ体験会を実施した。(河辺C) ・青少年対策第11支会地区委員によるポツチャ体験会を開催。(今井C) ・青少年対策地区委員会と自治会連合会第11支会の共催による薬物乱用防止の映画ならびに青梅警察署員による講演を実施。(今井C) ・児童・生徒の有志で「ホタルふくやしたい実行委員会」を立ち上げ、ホタルの位置や数等の情報を募り、地図におとした「ホタル新聞」を作成し、地域におけるホタルの生息状況を地域の方に報告した。(小曾木C) ・青少年対策第二支会委員会によるポツチャ体験会およびポツチャ交流会を開催。(長淵C) 	○	青少年が地域で健やかに成長できるよう、地域等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行ったため。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(3)家庭・学校・地域の連携	社会教育課	32	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	子ども会・保護者会等の学習活動に対する支援を行い、青少年の健全育成を図ります。	○	用具・備品の貸出を積極的に行ったため。
	子育て応援課	33	放課後子ども教室	スポーツや文化活動やさまざまな体験活動、地域住民との交流活動などを実施します。 市内16校で、おうめ放課後子ども教室「タやけランド」を実施した。 ・第一小(全45回) 延べ参加人数 1,636人 ・第二小(全54回) 延べ参加人数 1,307人 ・第三小(全26回) 延べ参加人数 691人 ・第四小(全87回) 延べ参加人数 1,526人 ・第五小(全121回) 延べ参加人数 4,811人 ・第六小(全21回) 延べ参加人数 249人 ・第七小(全105回) 延べ参加人数 1,182人 ・成木小(全38回) 延べ参加人数 572人 ・河辺小(全25回) 延べ参加人数 625人 ・新町小(全21回) 延べ参加人数 411人 ・霞台小(全30回) 延べ参加人数 400人 ・友田小(全35回) 延べ参加人数 1,426人 ・今井小(全40回) 延べ参加人数 1,801人 ・若草小(全26回) 延べ参加人数 1,065人 ・藤橋小(全44回) 延べ参加人数 1,029人 ・吹上小(全56回) 延べ参加人数 1,381人 主な活動内容: バドミントン、卓球、サッカー、工作、自主学習ほか	○	市内16校において、スポーツ・文化活動など多様な活動を実施することができた。
	社会教育課(図書館)	34	職場体験事業	職場体験学習として市内の中学生、高校生を受け入れ、図書館業務全般を体験します。	○	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、学校からの依頼にもとづき、中学校から、9人の生徒を受け入れた。
	社会教育課(図書館)	35	図書館と学校図書館との連携事業	市内小・中学校の学校図書館に学校図書館司書を配置し、子どもたちの読書活動推進および学習活動の支援を行います。 また、中央図書館1日図書館長や講演会などの事業を実施し、子どもたちの読書活動を促します。	○	東小中学校を除く全小中校に、学校司書を学校図書館に配置した。 令和4年度からは、小学校は1回6時間、年間40回から60回に増加を図った。また、中学校は1回5時間を6時間に、年間回数を35回から50回に増加を図った。 4月11日から3月22日まで、延べ1,460回の学校支援を行った。 学校連携推進重点校事業については、対象校の河辺小学校に対し、一日図書館長および講演会を実施した。 1日図書館長 10月22日 参加人数4人 菊地玉雲氏講演会 講談「玉川上水物語」(会場:河辺小学校)10月24日 参加人数69人 5年度は、学校司書の派遣および学校連携推進重点校事業を継続実施する。また、学校司書の派遣による効果について検証し、派遣増加について検討する。
指導室	36	地域人材の活用	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と学校が連携協力し、子どもたちの健全育成に活用します。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、以前のように対面での地域人材を活用した事業を実施することが増えた。次年度以降も、「青梅学」として、青梅の自然や伝統文化について学べるよう、地域との連携協力を図っていく。	○	各学校が、「青梅学」を教育課程に位置付け、青梅の自然や伝統文化について、地域人材を講師として授業を行うことができた。
社会教育課	37			該当なし。	—	

2 生涯学習の場と機会の拡充

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 施設用の整備と有効活用	スポーツ推進課	38	生涯スポーツの普及・発展、市民の健康と体力の増進を図るため、小・中学校の体育施設(校庭・体育館)を市民スポーツ団体の利用に供します。	利用団体:183団体 利用回数:5,369回 利用人数:121,370人	○	利用回数・利用者数ともに前年度を上回ったため。
	社会教育課	39	学校施設開放	登録団体:今井小学校4団体、第二中学校0団体 利用回数:今井小学校28回、第二中学校0回 利用人数:今井小学校450人、第二中学校0人	○	利用団体登録の広報を、広報おうめへの掲載だけでなく、HPへの掲載も行った。前年度は利用実績が1回だったが、今年度は利用実績が大幅に増えた。
	清掃リサイクル課	40	多摩川1万人の清掃大会	8月第1日曜日に多摩川の一斉清掃を行います。 8月6日に市内金の淵公園において多摩川1万人の清掃大会を市内18会場で実施した。 1,570名が参加し、720kgのごみが集まった。	○	令和元年度以来の通常規模での開催であり、たくさんの方に参加いただけ、多くのごみを回収することができた。
	清掃リサイクル課	41	河川清掃活動援助	多摩川以外の河川で行われる清掃活動への消耗品の援助を行います。 成木川、霞川等の河川における自治会等の清掃活動に対し、使用する軍手、タオル、ごみ袋を提供した。	○	河川における自治会等の清掃活動への支援を行うことにより美化活動の啓発を図った。
	高齢者支援課	42	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者が趣味を広げ、教養を深められるよう各種講座を開催します。活動の成果を発表する場として、高齢者教養講座合同文化祭を開催します。 (対象:60歳以上の方) 高齢者教養講座を7講座実施した。 詩吟 年24回 延べ216人参加 毛筆 年22回 延べ256人参加 ペン習字 年24回 延べ243人参加 茶道 年24回 延べ341人参加 華道1 年19回 延べ183人参加 華道2 年19回 延べ 80人参加 合唱 年23回 延べ829人参加 また、高齢者教養講座合同文化祭として、11月2日に市役所2階姉妹都市コーナーにて合唱講座ミニコンサートを、11月4日から5日にかけて福祉センターにて各講座の作品展示・発表等を実施した。 次年度については、東青梅1丁目諸事業用地の進展を考慮しつつ、開催を継続する。 ※下記43の事業と統合したことに伴い、華道2および合唱講座を追加。	△	生きがいのある生活や高齢者の外出支援として効果的であり、地域高齢者のふれあい・親睦の場となった。
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	高齢者支援課	43	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者の生きがい、健康増進、教養を高めることを目的に、沢井・小曾木保健福祉センターでは、各種教室を開催します。 (対象:60歳以上の方)	—	上記42に統合のため廃止
	高齢者支援課	44	敬老会	75歳以上の方を総合体育館に招待し、式典・演芸を行い、長寿をお祝いします。 (対象:75歳以上の方)	△	地域高齢者のふれあい・親睦の場となっており、発表者や芸能人を見るために参加する高齢者の外出支援にもつながった。 一方、参加率は1割程度であり、開催方法等には課題がある。 事業の廃止を含め、敬老会のあり方を検討していく必要がある。
	シティプロモーション課	45	観梅市民まつり	平成28年度に梅の再植樹が開始、3月には吉野梅郷梅まつりが復活しました。 中旬に行われる「観梅市民まつり」では、パレードや地元郷土芸能の披露などが行われ、多くの市民が出演者もしくは観客として参加し、おまつりを盛り上げています。	○	令和6年は、令和5年よりも約1,000人来場者が増加した。
	商工業振興課・システムプロモーション課	46	青梅産業観光まつり	地域の産業・観光事業を市民に周知し、振興・活性化することを目的に、市役所等を会場とした集合型イベント、市内散策を促す特典付きスタンプラリー等の分散型イベントを実施した。 ・集合型イベントでは、飲食業等の事業者の出店枠に加えて、官公署や各種事業者の組合等が体験ブースを出展したほか、分散型イベントでも、スタンプラリーに168店舗の参加と993件の応募をいたぐなど、様々な体験・学習の機会を提供した。次年度も引き続き、市内産業等を知つもらうきっかけとなる事業としたい。	○	・市役所駐車場および福祉センターで開催した集合型イベントには11,300人の来場者がおり盛況なうちに終了した。
	商工業振興課	47	昭和レトロ商品博物館	商店街空き店舗活用推進事業として、平成11年に住江町に開館した博物館。昭和30～40年頃のお菓子や菓などの商品パッケージを中心に、昭和を彩った懐かしい商品文化をお楽しみください。2階には、小泉八雲作の「雪女」と関わりのある資料を展示。	○	令和4年度と比較して入館者も増え、青梅駅周辺での回遊性の一助となっている。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	商工業振興課	48 青梅赤塚不二夫会館	商店街振興事業として、住江町商店街振興組合が、青梅駅周辺商店街の賑わいを創出するため、平成15年10月に開館。 明治時代後期の蔵に昭和を代表する漫画家「赤塚不二夫氏」の原画や貴重な写真などを展示。	令和2年3月末をもって閉館。	—	
	農林水産課	49 シイタケ栽培講習会	農業への理解を深め、収穫の喜びを体験していただくための講習会を開催します。	開催日:2月24日 参加者数:55人 内容:ほだ木の配付と育成管理指導 次年度目標 定員を超える申し込みがあり、大変好評なイベントであるため、引き続き実施していきたい。	○	感染症対策のため、ほだ木の穴あけや種ゴマの打ち込みは行わず、密にならないようほだ木の配付と育成管理指導だけ実施した。
	農林水産課	50 青梅市農業祭	市内の農畜産物の展示や直売などにより、農業への理解と関心を深めてもらうとともに、参加者同士のふれあいの場を提供します。	農業祭の実施だけではなく、昨年度に引き続き、新規就農者による直売会も実施した。 開催日:10月29日・11月15日…農業祭 場所:青梅市役所、JA西東京かすみ直売センター 次年度目標:市民の方からは大変好評を得ているため、引き続き実施したい。	○	市の広報や公式LINEを用いて周知することで、地元農産物を購入する機会を多数の市民に提供することができた。
	農林水産課	51 炭焼き体験教室	豊かな緑、豊かな水の原点は森にあることに着目し、炭焼きの実践や木々の観察、木工作等総合的な自然体験学習を行います。	森林ボランティア育成講座の講座内容から、令和5年度実施せず。	—	実施していないため、評価せず。
	社会教育課	52 成人式	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励まします。 1月第2月曜日(成人の日) 総合体育館ホール	実施日 1月8日 会場 総合体育館 出席者数 904人 タイムカプセル作品、中学校の先生からのビデオレターを上映した。	○	7割強の成人が出席し、厳粛な雰囲気の中執り行われた。
	社会教育課	53 掌管団体定期演奏会等	・青梅児童合唱団定期演奏会 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 ・青梅市民合唱団定期演奏会 ・ファミリーコンサート ・ミニコンサート	・青梅児童合唱団定期演奏会 9月18日 会場 福生市民会館 観客数 220人 ・青梅市民合唱団定期演奏会 11月5日 会場 ブリモホールゆとろぎ 観客数 400人 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 10月22日 会場 福生市民会館 観客数 160人 ・ファミリーコンサート 4月16日 会場 ブリモホールゆとろぎ 観客数 320人 ・ミニコンサート 青梅児童合唱団 8月23日 観客数 85人 青梅市民合唱団 8月25日 観客数 37人	○	各掌理団体の定期演奏会、ファミリーコンサートを行い、日頃の練習の成果を発表することができた。各演奏会前にはSNSで発信し周知を図ったことで、来場者数が前年度よりも増えた。
	社会教育課	54 市民大学	人文・社会科学・自然科学・産業技術・芸術文化・市民生活・国際関係等の中から現代的課題等に対応する学習機会を提供していきます。	NHKとの共催で「建立900年特別展中尊寺金色堂関連文化講演会を開催した。 実施日 1月30日 会場 市役所2階会議室 参加人数 196名 NHKが企画した講演会について募集案内があり、申し込んで当選した場合に実施可能となるため令和6年度は予定なし。	○	当初の定員150名から拡大して実施し、市民の強い関心の元開催することができた。
	社会教育課	55 農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	野菜の栽培や収穫、調理までの作業を体験し、農作業への関心を持ち理解を深めることを目的に、半年間の体験教室を行います。ふれあいまつりに参加し、野菜の販売体験を行います。 ・東京都農林水産振興財団・青梅食育クラブ共催事業	農業・食育体験教室を実施し、農業や食育について学んだ。全9回の講座を実施した。また教室の中で、文化祭での野菜の販売体験を行った。 農業・食育体験教室 延べ参加人数 478人	○	すべての教室を開催することが出来た。また、野菜販売会では、過去最高額の売上となった。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
	社会教育課	56	豊かに生きるための教室・講座等の実施	<p>趣味を広げ、知識・教養を深め、参加者同士の交流を広げるため、人生を豊かにする教室・講座等を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び出せ！夏のサイエンスキッチン 3講座(47人) ・らんま先生のeco実験パフォーマンス『SDGsの実験とギネス世界記録の大型空気砲を体験しよう！(172人) ・河合敦先生講演会「世界一わかりやすい日本史」(180人) ・キッズ☆体験教室4講座(47人) ・飛び出せ！サイエンスファミリー科学の最先端を見よう！バスツアー(42人) ・渡邊學而の名曲へのお誘い(721人) ・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業(文化ワークショップ)(245人) ・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業(文化キャラバン)(98人) <p>市民映画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードバイマー(字幕版)(66人) ・スタンダードバイマー(字幕版)上映後座談会(3人) ・老後の資金がありません！(312人) ・コーデあいのうた(字幕版)(104人) ・バッドガイズ(吹替版)(125人) <p>※括弧内は講座の延べ参加人数 今後も様々な講座をバランス良く企画する。</p>	○	幼児教育から成人教育まで幅広く行き、おおむね順調であると判断した。
	社会教育課	57	16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	<p>映写機の操作方法、映写方法、映写会場の作り方などを学ぶ講習会を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオプロジェクター操作講習会 10月25日実施 計3人修了 ・16ミリ発声映写機操作講習会 3月11日実施 計9人修了 	○	ビデオプロジェクター操作講習会および16ミリ発声映写機操作講習会を実施することができた。
（2）豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課（図書館）	58	中央図書館講座等	<p>図書館の広報と利用者サービスの拡充を図るため、原画展や講演会などを実施します。</p> <p>市民の教育と文化の向上を図るための学習機会を提供するため、次のとおり各事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○展示 <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚コーナー資料展示(2階フロア) 4月1日～3月31日 12回 ・ハンディキャップコーナー資料展示(2階フロア) 4月1日～3月31日 4回 ・資料展示(3階フロア) 4月1日～3月31日 47回 ・児童コーナー資料展示(3階フロア) 4月1日～3月31日 40回 ・資料展示(4階フロア) 4月1日～3月31日 17回 ・分館資料展示(9分館) 4月1日～3月31日 447回 ○記念館で読書案内(吉川英治記念館) 5月6日、10月29日 2回 参加人数18人 ○青梅市図書館を使った調べる学習コンクール <ul style="list-style-type: none"> ・応募作品数 小学生の部:893作品 中学生の部:40作品 ・表彰式 12月2日 ・ひとりじめ調べる学習相談窓口 7月29日～8月6日 6回 参加人数12人 ・金の渦新春祭おはなし会 5月14日 参加人数29人 ○朗読会 <ul style="list-style-type: none"> ・この指とまれ！朗読会 5月20日 27人 ・朗読で楽しむ古典の世界「だざいのさいかく(大宰の西鶴)」12月3日 参加人数49人 ・中高校生向け朗読会「本好きたちの集い～教えてみの一冊～」12月17日 参加人数33人 ○図書館利用者懇談会＆ブックコーティング体験会 2月24日 参加人数4人 <p>6年度は、既存事業の継続実施を中心としながら、内容の充実や新規事業について実施を検討する。</p>	○	図書の展示、青梅市図書館を使った調べる学習コンクール、読書会(新規事業)等を開催し、図書館や図書に親しむ機会を提供できたとともに多数の参加者を得ることができた。
	社会教育課（図書館）	59	中央図書館での工作及び手芸教室	<p>工作などを通じて手作りの楽しさ、創造することの楽しさを体験する各種教室を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館工作教室 8月9日～8月10日 2回 参加人数33人 ・分館工作教室 <ul style="list-style-type: none"> ・今井図書館こうさく会5/20～3/16 11回 参加人数155人 ・青梅図書館ミニ工作会5/21～3/17 11回 参加人数86人 ・大門図書館 8月6日 1回 参加人数6人 ・うめこの時間 ワークショップ 8月19日、12月16日 2回 参加人数33人 ・沢井図書館 11月5日 1回 参加人数11人 <p>6年度は、既存事業の継続を中心としながら、内容の充実や新規事業について実施を検討する。</p>	○	子どもの図書館利用を喚起するため工作教室を実施し、308人の参加者を得た。
	社会教育課（図書館）	60	中央図書館での上映会	<p>中央図書館多目的室において、映画会を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館映画会 4月30日～3月24日 12回 参加人数574人 ・はじめての上映会 6月25日 1回 参加人数 30人 ・中央図書館子ども映画会 7月23日～3月24日 3回 参加人数 43人 ・パリアフリー上映会 9月23日 1回 参加人数 51人 <p>6年度は、既存事業の継続を中心としながら、内容の充実や新規事業について実施を検討する。</p>	○	映画会、子ども映画会、パリアフリー上映会のほか、乳幼児を対象とした「はじめての上映会」を継続開催し、合計698人の参加者を得た。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
	文化課 (郷土博物館)	61 展示・普及事業	青梅市の歴史や自然を紹介する常設展のほか、郷土の歴史や文化財などをテーマとした企画展等を年3~4回程度開催します。 また、企画展等に開連した講演会、解説講座を開催します。	○令和5年度取組状況 1 企画展「青梅の自然災害と疫病～災禍に向き合った人々～」 ①会期:4/22~7/30 ②入館者数:3,969人 ③内容:近世以降の地震や噴火、風水害などの「自然災害」と、疱瘡やコレラなどの「疫病」をテーマに古文書や絵馬など関連資料を展示 2 「新収蔵品展2023」 ①会期:8/19~11/26 ②入館者数:3,083人 ③内容:令和4年度に収蔵した資料の中から、主なものを「産業」、「生活」、「文化」などのテーマに分けて展示した。 3 企画展「青梅の御殿奉公～江戸に上がった女性たち～」 ①会期:12/16~3/31 ②入館者数:3,101人 ③内容:江戸時代に御殿奉公に上がった青梅地域出身の女性たちに焦点を当て、当時の手紙や挿図など関連資料を展示 4 博物館関連講座「災害で失われる文化財の救い方—地域の歴史と文化の継承のために—」 ①実施日:7/8 ②参加者数:21人 5 博物館関連講座「青梅から御殿奉公した女性－小林たみ(民)」 ①実施日:3/10 ②参加者数:53人 6 企画展「青梅の御殿奉公～江戸に上がった女性たち～」図録発行(300部) ○次年度目標 令和6年度は常設展に加え、3つの展示事業の実施を予定している。	○	3回の企画展等を開催した。 1については、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、前年同時期の展覧会と比較して来館者数が増加し、アンケートは概ね好評であった。関東大震災発生から100年目の節目に当たり、自然災害や疫病について、広く来館者に知っていただくことができた。 関連講座を開催し、災害で失われる文化財の救い方や取組について、周知することができた。 2については、企画展より集客力に乏しく、前年同時期と比較して来館者は減少したが、アンケートは概ね好評であった。 3については、前年同時期の展覧会と比較して来館者数が増加、アンケートは概ね好評であった。併せて展示図録の刊行、そして関連講座を開催することができ、広く来館者に周知することができた。 4および5の関連講座については、前年度1回だったものを2回に増やし、特に「青梅から御殿奉公した女性－小林たみ(民)」については、キャンセル待ちが発生するほどの反響をいたいた。 なお、関連講座に関するアンケートはどちらも概ね好評であった。
	文化課 (郷土博物館)	62 文化財の調査・保護・活用	埋蔵文化財の調査を実施するほか、指定文化財の保存事業として、修理補助や報償金の支給を行います。 また、指定文化財住宅の公開イベントなど活用に取り組みます。	○令和5年度取組状況 当初5件の予定が1件前年度に前倒しし、1件追加となつたため、5件の指定文化財保存修理事業について補助金を支出した。 1都指定史跡「天寧寺境域」防災工事 ①工期:R5.10.25~11.28 ②概要:消火設備用エンジンポンプの修理 2都指定史跡「安楽寺境域」復旧 ①工期:R5.9.12~11.20 ②概要:宝塔の柱部分や石蔵の軒部分の修理 3市指定無形民俗文化財「友田御嶽神社獅子舞」獅子頭修理 ①工期:R5.7.10~8.23 ②概要:獅子頭の欠失した羽根の補充 4市指定天然記念物「大背戸のカシ」危険枝等剪定 ①工期:R5.9.20~10.6 ②概要:枯れ枝や危険枝等の剪定 5市指定史跡「観音寺」鐘楼屋根葺替修理 ①工期:R5.10.12~R6.3.9 ②概要:鐘楼の茅葺屋根の葺き替え工事 6旧吉野家住宅の修繕および敷地内の整備 旧吉野家住宅の土壁や建具等の修繕をはじめ、茶畠撤去および芝生化を実施した。 ・土壁や建具等修繕(12月~3月) ・茶畠撤去や芝生化(12月~3月) 7地元団体を対象にした旧吉野家住宅保存活用計画の意見交換会を9月7日に開催した。 ○次年度目標 令和6年度には、4つの補助事業に加え、旧吉野家住宅の土壁等の修繕や畠の表替えを予定している。	◎	取組状況の1~5の5件の補助事業については、予定通り完了することができた。 1の指定史跡「天寧寺境域」については、施設の防災に必要な設備であるため、東京都と相談し、急遽年度内に取り組んだ。 2の都指定史跡「安楽寺境域」については、宝塔の柱部分の劣化が最小限にとどめられ、石蔵の軒部分の修理することにより、雨漏り等を防ぐことができた。 3の市指定無形民俗文化財「友田御嶽神社獅子舞」については、獅子頭の欠失した羽根の補充したため、本来の獅子頭の状態になり、祭礼で披露することができた。 4の市指定天然記念物「大背戸のカシ」については、枯れ枝の落下の危険性を取り除くことができた。 5の市指定史跡「観音寺」については、屋根葺き替えを実施したことにより、屋根の雨漏りから鐘楼を守ることができた。 今年度は、民間団体等による補助事業を活用する案件がなかった。 6の旧吉野家住宅の修繕および敷地内の整備については、土壁等の修繕を実施したこと、損傷していた建具や土壁が本来の姿に戻るとともに、風雨等による影響が軽減し、貴重な文化財を適切に保存・管理する上で有効なものとなった。 また、茶畠撤去および芝生化を実施したこと、チャドクガによる被害がなくなり、見学者等の安全確保が図られるとともに、旧吉野家住宅の利活用について拡充が見込まれることになった。 なお、畠の表替えについては、年度当初、令和5~6年度の2か年事業で計画していたが、材料費の高騰により、令和6~7年度に先送りとなつた。 7の地元団体を対象にした旧吉野家住宅保存活用計画の意見交換会については、参加された地元団体の方々から旧吉野家住宅の保存活用に向けて多くの意見を聴取することができた。
(2) 豊かに生	文化課 (郷土博物館)	63 文化財の普及・啓発	市内にある文化財等の解説を広報などに掲載します。また、文化財めぐりを実施したり、文化財解説ボランティアの育成などに取り組みます。	○令和5年度取組状況 1 「青梅市の文化遺産」市広報毎月15日号に掲載 2 「青梅市文化財ニュース」毎月15日発行 3 「文化財保護指導員活動報告書」毎年発行 4 わがまち青梅講座 (1)「御岳の山なみと御神宝」 ①実施日:6/10 ②参加者数:10人 (2)「樹形山城跡・辛垣城跡を歩く」 ①実施日:10/28 ②参加者数:19人 (3)「開拓の地 新町を歩く」 ①実施日:3/2 ②参加者数:13人 5 文化財解説ボランティア 小学生の社会科見学等の解説活動(23回)や全体会(2回)、学習会(9回)を実施した。 ○次年度目標 令和6年度には引き続き広報おうめ、文化財ニュースおよび活動報告書を活用した普及・啓発事業を予定している。	○	1および2の「青梅市の文化遺産」および「青梅市文化財ニュース」では、毎月、市内の文化財について紹介することで、広く周知を図ることができた。 3の「文化財保護指導員活動報告書」については今年度も発行し、文化財に関する調査報告や指導員の活動を紹介することができた。 4のわがまち青梅講座については、前年度1回であったが、今年度は3回開催することができた。 5の文化財解説ボランティアについては、新規ボランティアの募集を行い、小学生の社会科見学等の解説活動を再開することができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
きるための学習機会の充実	文化課 (吉川英治記念館)	吉川英治記念館の運営事業	吉川英治記念館の運営事業	<p>○令和5年度取組状況</p> <p>1 展示事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①春季展示「昭和10年代の英治作品と暮らし」 (1)会期:4/8~6/25 (2)入館者数:1,282人 ②夏季展示「吉川英治と市所蔵の文豪たち~青梅市吉川英治記念館×文豪とアルケミストPARTⅢ~」 (1)会期:7/8~9/24 (2)入館者数:1,817人 ③秋季展示「吉川英治と川合玉堂~その作品と交流~」 (1)会期:10/7~12/17 (2)入館者数:2,118人 ④新春展示「生懶範義展~吉川英治を描く~」 (1)会期:1/20~3/17 (2)入館者数:1,655人 <p>2 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域連携事業「五月人形展」 (1)会期:4/29~5/21 (2)入館者数:473人 ②地域連携事業「青梅夜具地展」 (1)会期:11/1~11/30 (2)入館者数:1,089人 ③「秋のライトアップと夜間開館」 (1)会期:11/11~11/26 (2)入館者数:125人 ④ガイドボランティア養成講座 (1)回数:10/15, 22, 29, 11/5 ⑤受講者数:5人 ⑥地域連携事業「ひな人形展」 (1)会期:2/17~3/20 (2)入館者数:1,298人 <p>○次年度目標</p> <p>令和6年度は季節展示4回、各種普及事業の実施を予定している。</p>	○	<p>公益財団法人吉川英治国民文化振興会より寄付を受けた吉川英治記念館について、令和2年9月に青梅市吉川英治記念館として開館し、4年目を迎えた。</p> <p>1の展示事業については、年間4本の季節展示を予定通り開催することができた。</p> <p>昨年度に引き続き開催した夏季展示「吉川英治と市所蔵の文豪たち~青梅市吉川英治記念館×文豪とアルケミストPARTⅢ~」では、20~30歳代の女性層の来館が多く見られた。</p> <p>秋季展示「吉川英治と川合玉堂~その作品と交流~」では、玉堂美術館から吉川英治との関連資料を借用し展示した。また、関連事業として、吉川英治記念館と玉堂美術館の名建築に着目し、両館を巡るバスツアーを実施した。</p> <p>新春展示「生懶範義展~吉川英治を描く~」では、みやざきアートセンターから借用した原画等を展示した。会期中に開催したトークイベントにも生懶ファンの方が来館し、吉川英治記念館を知つてもらう契機となつた。</p> <p>2の自主事業については、「五月人形展」、「青梅夜具地展」、「秋のライトアップと夜間開館」などを予定どおり実施することができた。</p> <p>その中でも青梅信用金庫の協力を得ながらガイドボランティア養成講座や「美しき桜の物語」の語り会などを開催したことで、市民や地元企業の方々と連携し、吉川英治記念館を盛り上げていくための事業として実施することができた。</p> <p>また、英治忌である9月7日については、今年度から入館料を無料としたため、多くの方の来館があつた。</p> <p>令和5年度の来入館者数は、7,667人となり、目標としていた12,000人の約6割にとどまつていて。</p>
（2）豊かに生きるための学習機会の充実	文化課 (美術館)	展示・普及事業	テーマに沿つた特別展や企画展、共催展として年4~5回、美術展を開催します。 青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を年4~5回程度展示替えし、紹介します。 また、美術館のほかに、市役所2階の展示スペースを活用し、年3回展示替えをし、紹介します。 実技講座、美術講演会、ギャラリーガイド等を実施し、美術への関心を深めていただきます。	<p>○令和5年度取組状況</p> <p>＜美術展の開催＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「生誕130年・東京都制施行80周年記念小山癸巳男の『昭和大東京百図絵』で巡る～レトロでモダンな東京散歩～」作家129点 会期 10/7~11/26 観覧者数 2,506人 ・館蔵企画展「大屏風展」16作家11点 会期 4/15~6/4 観覧者数 1,362人 ・共催展「アートビューライブ「西多摩2023」アート」を俯瞰する 14作家58点 会期 12/16~1/19 (2/4までの予定だったが、設備破損のため1.19正午で終了) 観覧者数 547人 ・小島善太郎、藤本能道の作品展示 青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を常設展示コーナーに各展覧会会期中に毎回4点程度展示した。 市役所2階展示コーナーに小島善太郎、藤本能道の作品を展示した。年3回展示替えを行つた。 ＜実技講座等の開催＞ ・鑑賞講座「ゲストキュレーターによるギャラリートーク」講師前澤朋美氏 実施日 10/22 参加者 11人 ・鑑賞講座「展示作家によるギャラリーガイド」 講師 展示作家11人 実施日 12/16 参加者19人 ・講演会 地域の美術について考えるトークイベント 講師 鈴木大氣氏他3人 実施日 12/17,12/24/1,21,1/28 参加者 48人 ・講演会 地域の芸術文化について考えるトークイベント 講師 持田史氏他5人 実施日 1/14,2/4(2回) 参加者 37人 ・実技講座「木版画でクリスマスカードを作ろう」 講師 井上厚氏 実施日 10/7~10/28(4回) 参加者 19人 ・実技講座 西多摩地域の小学校にアーティストが赴き交流授業を実施し作品を創作 講師 酒平☆氏他3人、1団体 実施日 9/11~11/24(5回) 参加者 139人 ・実技講座 「縁起物の熊手を作ろう」 講師 酒平☆氏 実施日 1/7 参加者 11人 <p>○次年度目標</p> <p>施設改修のため令和8年度末まで休館</p>	○	<p>美術展については、年間を通じて、さまざまなジャンルや切り口の展覧会を開催することが出来た。</p> <p>特別展においては展示内容等の工夫を行つたことで来館者の反応も良く、満足度が高かったため。</p> <p>館蔵企画展においては、展示ケースの借用に費用がかかったが、計画どおり実施できたため。</p> <p>小島善太郎、藤本能道作品については、美術館のほか、市役所2階展示コーナーを使用し、展示替えを行うことによって、多くの収蔵作品を市民に紹介した。</p> <p>実技講座等については、開催時期にあわせた企画を検討し、市民に提供することが出来た。</p> <p>鑑賞講座として、作家本人、ゲストキュレーターといった方々のギャラリートーク等を実施し、作家や作品の理解を深めた。</p> <p>実技講座では参加者に工作の楽しさを体験していただいた。</p>
	選舉管理委員会	明るい選挙推進講演会	明るい選挙を推進していく観点から、明るい選挙推進委員および一般市民を対象に、講演会を開催します。	日程：令和6年3月17日(日)実施 参加者：55名 演題：「五日市憲法草案」と起草者千葉卓三郎 講師：町田市立自由民権資料館 学芸員 松崎 稔 氏 隔年開催のため、令和6年度は実施予定なし	○	明るい選挙の推進を目的とした講演会を実施できた。
	農業委員会	親子農業体験会	田植え・稲刈りといった農作業を体験していただき、市民と市内農業とのふれあいを図ります。	田植え ・6月17日実施 ・参加人数 14組31名参加 稲刈り ・10月14日実施 ・参加人数 12組27名参加 収穫した米については、参加申込者に配布した。 次年度目標 参加者からは大変好評を得ているため、引き続き取り組みたい。	○	昨年度は稲刈りが雨天中止となつたが、どちらも実施できた。多くの参加者に田植えや稲刈りを体験してもらうことが出来た。また、収穫した米を後日精米し配布できた。
	シティプロモーション課	螢を見るタペ	成木川に発生する螢の鑑賞会を開催し、保護育成に関する啓発パンフレット等を配布し、螢の生育する環境についての理解と関心を高めます。	「螢を見るタペ」は開催していない。	—	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
社会教育課	69 生涯学習フェスティバル(金の淵新緑祭)	新緑の金の淵公園・郷土博物館・旧宮崎家・金の淵市民館を生涯学習サークルの発表の場として、楽しいイベントを通じた市民の交流の場とします。	生涯学習フェスティバル～金の淵新緑祭2023～ 実施日 5月13日、14日 会場 金の淵公園、旧宮崎家、文化交流センター 延べ参加人数 2,003人	○	前年度を上回る35イベントを実施し、また、参加型ワークショップを開催する等、市民の交流の場を作り上げることができた。	
	70		○令和5年度取組状況 郷土博物館、旧宮崎家住宅を生涯学習サークルの発表の場として提供した。 ○次年度目標 令和6年度も、同様に発表の場として提供していく。	—	実行委員会協力のもと、会場準備、開催を実施し、発表の場としてスムーズに実行できた。	
秘書広報課	71 国際交流活動支援	国際交流団体の国際交流事業に対する補助(国際交流基金)等の支援を行い、活動の活性化を目指します。	語学研修事業および文化交流事業を行う市内3団体に対し、国際交流基金を原資とした補助金を交付した。 引き続き、国際交流の普及を図るため、国際交流基金を更に多くの市民に周知し、また、有効活用しながら、国際交流活動を支援する。	○	語学講座(ドイツ語、中国語)および国際交流の場として実施している国際交流の広場に対し補助を行い、市民の国際交流の推進の一助となっている。	
	72 通訳ボランティア	青梅マラソン大会参加外国人選手の通訳を、ボランティアの協力を得て、国際的な交流の輪が広がるよう支援します。	令和4年度に、青梅マラソン大会に語学ボランティアとして参加した方全員に聞き取りしたところ、個人が所有しているスマートフォン等の翻訳アプリの正確性から、特別に語学ボランティアが同行しなければならないケースや外国人からの問合せがない状況であることが分かった。補助が必要か積極的に声掛けをしたが、語学ボランティアが必要とされる場面はない状況と判断し、令和5年度は語学ボランティアの配置を行わなかった。 なお、ボッパルト市民選手団の参加がなかったため、ドイツ語通訳者も不要であった。	×	令和5年度は、語学ボランティアの配置をせずに青梅マラソン大会を実施したが、語学ボランティアがいないことで意思疎通ができず、大会開催中に外国人とトラブルになった等の事象や混乱は報告されていない。	
市民安全課	73 平和の写真展の開催	世界の恒久平和を希求することをテーマとした写真展を開催し、市民が平和について考える機会とします。	1月28日から2月3日まで、市役所2階行政コーナー前において、「中村哲関連写真展～アフガニスタンに命の水を～」を、世界連邦運動協会青梅支部と共催で実施した。 2月28日から8月10日まで、市役所1階ロビーにおいて、「原爆～絵で見る原爆～」を開催した(展示パネルは、広島平和記念資料館から借用した)。 3月1日から3月11日まで、市役所1階ロビーにおいて、羽村市と共に「東京の空襲資料展」を開催した。 令和5年度をもって世界連邦運動協会青梅支部が解散したため、平和写真展は実施しない見込み。原爆展および東京の空襲資料展は引き続き開催予定。	○	各種写真展を通して、市民の平和意識の高揚を図ることができた。	
市民安全課	74 男女平等講座の開催	男女平等参画の視点に立った講座を実施します。	ジェンダー平等の意識啓発のため、ワーク・ライフ・バランスについて考える講座や、各種啓発講座を開催した。 また、男女共同参画週間などのパネル展示を行った。 次年度も、各種啓発を行っていく。	○	対面での講座開催など、コロナ禍前の状態で啓発講座を行うことができた。 男女共同参画週間や、女性に対する暴力をなくす週間など、その都度パネル展示を行うことができた。	
市民安全課	75 女性の就業支援	働く女性の能力開発および就業意欲向上のための講座を開催し、情報提供を行います。	将来の女性リーダーを育成するためのスキルアップセミナー、キャリアアップセミナーを開催した。 また、セミナーのほか、講演会や勉強会も行った。 次年度も、女性活躍推進事業として、支援を行っていく。	○	対面式で、女性活躍の必要性や具体例を伝える講演会を実施することができたほか、就業意欲向上のための講座を開催し情報提供することができた。	
（3）ともに生きるための学習機会の充実	76 市民センター	教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講演会・講習会を行います。青梅老壯大学、調布ことぶき大学、霞老壯大学、梅郷老壯大学園、小曾木老壯大学、東青梅老壯大学、河辺老壯大学	・(青梅C)(青梅老壯大学)各種講座等を開催した。参加人数:500人 ・(長淵C)(調布ことぶき大学)講演会等の行事を開催した。延べ参加人数:298人 ・(小曾木C)(小曾木老壯大学)各種講座等を開催した。参加人数:323人 ・(東青梅C)(東青梅老壯大学)各種講座等を開催した。延べ参加人数:408人 ・(河辺C)(河辺老壯大学)各種講座、講演会を開催した。延べ参加人数:542人 ・(大門C)(霞老壯大学)各種講座等を開催した。延べ参加人数:607人	○	年間計画通り実施できたため(青梅C) 新型コロナウイルス感染症防止対策により、事業計画どおりに年間実施回数を行うことができたため。(長淵C) 年間計画通り実施できたため(東青梅C) ほぼ年間計画どおり実施出来た(大門C)	
	77 地域福祉課	社会を明るくする運動	人々が互いに助け合い、希望を持って生きることのできる明るい社会を目指して、座談会やチラシの配布など啓発事業を行います。	・7月1日から14日まで本府舎1階ロビーに啓発ブースを設置 ・7月3日に河辺駅頭および青梅市中央図書館周辺で保護司、更生保護女性会、民生委員等と啓発活動 ・市内学校、自治会掲示板、市設等770箇所へポスターの掲示、市庁舎へ横断幕の掲出 ・各市民センターでミニ集会実施 ・市内中学校へ社会を明るくする運動青梅市推進委員長のメッセージCDを配布 ・健康まつり、お～ちゃんフェスタ等のイベントでの啓発活動(次年度目標) 駅頭活動の実施場所(駅)の増加および市内中学生への参加協力を依頼する。	○	休止していた市のイベント等が再開し、対面での啓発の機会が増え、より多くの方に社会を明るくする運動を知っていただく機会が増えたため。
高齢者支援課	78 家庭介護DVDの貸出し	在宅の介護者やボランティアの方々の活動を支援するために、介護等のDVDを無料でお貸します。	家族介護のためのDVD等の貸し出しを行った。 利用者数 2名 利用本数 7本 次年度についても事業を継続する。	△	利用者数が少なく、DVDが古くなっている。	
高齢者支援課	79 認知症サポーター養成講座	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する、認知症サポーターを養成するための講師を派遣します。また、認知症サポーターに対し、ステップアップ講座を行います。	認知症サポーター養成研修を以下のとおり実施した。 ・実施回数 25回 ・養成サポーター数 575人 認知症サポーターに対してステップアップ講座を実施した。 ・実施回数 1回 受講人数 25名(講演者所属団体会長1名を受講人数に含む) 次年度についても事業を継続する。	○	認知症サポーターを増やし、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりに取り組んだ。認知症サポーターに対してステップアップ講座を実施し、認知症に対してより深い知識と対応方法についての学習の機会を設けることが出来た。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
	高齢者支援課	80 家族介護教室	高齢者を介護している家族等を対象として、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等の知識・技術を修得する教室を開催します。	介護の日イベントに合わせて2講座を開催した。 実施日:11月11日 内容: ①「美味しく安全に食べる方法を学ぼう～窒息やむせを防ぐ食事介助のコツ～」 講師:多摩リハビリテーション学院 木村欣司先生 ②「お互いの負担の少ない介助方法を学ぼう～寝返り・立ち上がり・移乗・歩行などの介助のコツ～」 次年度も継続して開催する。 参加者:①13人 ②10人	○	高齢者を介護している方、ご家族やご自身の介護に備えたい方などを対象に、実践に役立つ内容を伝えることができた。
	障がい者福祉課	81 手話講習会事業	福祉に対する关心を高め、地域福祉を推進するため、手話の初・中・上級講習会を開催します。 初・中級講習会は、障害者団体等と協働で実施します。	青梅市聴覚者協会との協働事業として、入門手話講習会および初級手話講習会を実施した。また、青梅市社会福祉協議会が実施する上級手話講習会に補助金を交付した。	○	入門手話講習会(全3回)は31人の受講があり、初級手話講習会(全25回)は25人の受講があった。いずれも定員以上の応募があり、おおむね順調であると判断した。
(3) ともに生きるための学習機会の充実	障がい者福祉課	82 点字図書給付事業	視覚障がいの方に、点字図書を給付し、その活動を支援します。	障がい者のしおりや、市ホームページ等で周知を行ったが、令和4年度は利用がなかった。	△	令和4年度は利用実績がなかったが、視覚障害者への支援のひとつとして、効果的な事業であると認識している。 給付対象者の方への周知方法およびニーズの把握等制度の有効活用対策を講じる必要がある。
	障がい者福祉課	83 身体障がい者自動車運転教習事業	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行います。	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行った。 助成件数 4件	○	自動車教習は例年利用実績があり、心身障害者の社会参加の拡大に効果的な事業であると判断している。
	障がい者福祉課	84 相談支援事業	市の窓口で、障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行うことで社会生活の自立に向けた支援をします。	障がい者福祉課、青梅市障がい者サポートセンター、青梅市障害者就労支援センターで実施。 ・市役所障がい者福祉課 実利用人数1,186件 ・障がい者サポートセンター 延べ相談件数12,401件 ・障害者就労支援センター 延べ相談件数6,091件	○	市の窓口等で、障害のある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言、また必要に応じ関係機関への橋渡しを行い支援ができた。
	障がい者福祉課	85 意思疎通支援事業	意思の疎通が困難な重度聴覚障がいの方に対して、公共団体等が主催する行事などに手話通訳者・要約筆記者を派遣します。	障がい者のしおりや、市ホームページ等で周知を行ったが、行事などの開催が見送られることが多かったため、令和4年度は派遣実績がなかった。	○	令和4年度は派遣実績がなかったが、例年利用実績があり、障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮のひとつとして重要な事業と認識している。
	障がい者福祉課	86 青梅市障がい者サポートセンター事業	障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や支援を行い、障がいのある方の創作活動や生産活動の促進等を行います。また、障がいのある方やその家族、障がい者団体等が活動する場を提供し、障がいのある方の自立の促進を図ります。	条例・規則に定めた支援を実施した。 ・相談支援 延べ相談件数 12,401件 ・創作活動や生産活動 延べ参加人数 3,332件 ・施設貸出し 延べ利用人数 984件 ・生活支援(パソコン指導・療育指導) 延べ人数 529件	○	相談支援件数が増加している。障害福祉サービスにかかるサービス等利用計画の作成の影響と考える。 本事業により、障害のある方やその家族等への支援を行い、障がい者の自立の促進が図れた。
	障がい者福祉課	87 中等度難聴児発達支援事業	身体障がい者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援します。	身体障害者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援した。 給付件数 1件	○	本事業は、平成25年度からの事業で、手帳の交付対象とならない難聴児に対する支援であり、手帳取得に至らない中等度難聴児の発達支援を行うには効果的な支援制度と判断している。 耐用年数の経過により、既に給付している対象者に再支給することもあるため、制度の継続は不可欠であると判断する。
	社会教育課	88 ともに生きるための教室・講座の企画運営	地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。 高齢者の生きがい、男女平等、人権平和・国際理解、障がい者の学びの場を実現し、地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。	・ジェンダー平等講演会「行ってみよう！聞いてみよう！よっちゃんのこれでいいんだ！」(42人)	○	LGBTQ当事者を講師として招き、生の声を届けることができた。
	社会教育課	89 生涯学習まちづくり出前講座	市の施策や事業等をテーマに、市職員等が市民のところへ出向いてお話しする出前講座を実施し、市民が自分達のまちについて学ぶ生涯学習の機会を提供します。	講座名「青梅市の防災対策(地震・風水害)～自助・共助・公助～」以下47講座 防災課以下18課 延べ受講者数 2,229人	○	前年度に比べ、延べ受講者数が大きく増加したから。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
	青梅佐藤財団・社会教育課	90 国際理解講座	1 世界に広がる教室 次代を担う青少年(小学4年生～高校生)のために、国際的な視野と教養が身につくよう支援します。(英会話と文化講座) 2 外国人日本語講座 外国人が日本語を正しく理解し、安全で快適な市民生活が送れるよう講座を実施し、支援します。(正しい日本語の学習「音声・文字・助詞」) 英語やひらがなの多様など、外国人にわかりやすい周知を実施する。	・小学生講座 実施日 5月20日～3月9日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 小学校4年生35人、小学校5年生19人、小学校6年生16人 計70人 ・中学・高校生講座 実施日 5月20日～3月9日(全20回) 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 中学1年生4人、中学2年生12人、中学3年生4人、高校1年生4人、高校2年生1人 計25人 ・外国人日本語講座 実施日 5月17日～11月15日(全18回) 内容 正しい日本語の学習、音声、文字、助詞 参加人数 14人	○	世界に広がる教室は、合計で95人の参加者を迎えて国際的な視野と教養が身につくよう、全20回の講座を実施することができた。 外国人日本語講座は、日本語を正しく理解してもらえるように、全18回の講座を実施することができた。
	高齢者支援課	91 介護予防講演会	介護予防に関する基本的な知識の普及啓発のため講演会を開催します。	介護予防、認知症予防等に関する講演会を2回開催した。 ・認知症講演会「明日認知症と言われたら」 実施日:9月19日 講師:能任智子氏(どうきょう認知症希望大使) 参加者:36人 ・介護予防講演会「今だからできるフレイル予防について」 実施日:12月14日 講師:秦 俊貴氏(東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター) 参加者:22名 次年度も継続して開催する。	○	認知症講演会を開催し、認知症ご本人による普段の生活やくらしの保健室の様子についての紹介を行った。介護予防講演会では、基本的な介護予防の運動を参加者と共に実践したほか、フレイル予防の3本柱についても講義した。
	高齢者支援課	92 介護予防教室	高齢者の健康寿命延伸、介護予防を目的に、健康チェックや集団での運動などを行います。	介護予防教室を下記のとおり実施した。 ・健康長寿寿命のび～る教室 10回×年2回 計30人(延べ270人) 委託事業者:医療法人社団和風会 河辺市民センター、S&Dたまごセンター ・脳イキイキ教室 全6回×年3回 計44人(延べ226人) 委託事業者:医療法人社団和風会 会場:成木市民センター、梅郷市民センター、今井市民センター 次年度も継続して開催する。	○	介護予防や認知症予防として教室参加による閉じこもり予防や仲間づくりを行うことの大切さも伝えることができた。家で自身で実施できる課題の提供を行い自身でも介護予防に取り組めることを目指した内容で実施した。
	健康課	93 おうめ健まつり	医師による健康相談、健康チェック、歯科相談、展示、体験等のコーナーや健康に関する講演など、市民一人ひとりが家族ぐるみで楽しく健康づくりを学べる催しです。	＜令和5年度目標＞ 新型コロナウイルス感染症予防に配意しながら、コンパクトな規模での再開を目標とし、平成31年以来4年ぶりに開催した。199人(ただし、子どもを除く。)の来場者があった。 ＜次年度目標＞ 健康づくりに関係する福祉、スポーツ等の部署に協力依頼し、ブースやコーナーを増やし、健康づくり推進の啓発を行う。	○	苦情もなく無事に計画どおりに開催できた。
（4）健やかに生きるための学習機会の充実	健康課	94 健康教育	生活習慣病の予防とその他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、「自分の健康は自分で守る」という自覚を高め、健康の保持増進を行うための講座や教室を実施する。	【取組状況】 生活習慣病予防その他の健康保持・増進に関連した健康教育を計58回(1,874人)実施した。 【次年度目標】 生活習慣病予防その他の健康保持・増進に関連した健康教育を50回以上実施する。	○	・体組成測定会では、健康運動指導士等に依頼し指導内容が充実した。 ・申込みなどに電子申請等を活用した。
	健康課	95 健康相談	心身の健康に関する個別の相談に応じ必要な指導及び助言を行い、自分の健康管理を行ふための健康相談を実施する。	【取組状況】 中央図書館等で健康相談17回(236人)、栄養相談17回(107人)実施した。 その他の相談として健康センターで面接、電話による相談を実施した(面接56人、電話71人)。 【次年度目標】 ・中央図書館等で相談事業を実施予定 ・健康センター等で面接、電話による相談を実施 ・DXを推進する	○	・栄養相談を予約制にして、個別性を考慮できるように充実させた。 ・申込み等でDXを活用した。
	総合病院管理課	96 おうめ健康塾	当院の医師・看護師等が講師となり、疾病の原因、治療、予防等について話し、質問にもお答えします。年間11回の開催予定です。	新型コロナウイルス感染症発生後、対面式のおうめ健康塾を見合わせ、令和3年度11月からオンライン配信版おうめ健康塾を実施。令和5年度は6本の動画を公開。過去に公開した7本の動画を含め、計13本の動画が視聴可能となつた。 次年度以降についても、引き続き市民ニーズに沿った動画を公開していく。また、新病院建設事業の進捗状況により、会場が確保でき次第、対面式の開催も検討していく。	○	令和3年度からオンライン配信を開始し、令和5年度は6本の動画を公開したため。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
	スポーツ推進課	97	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	<p>市民が健康新生活を送れるよう支援する教室・講座を開催します。</p> <p>1 短期スポーツ 気軽に楽しく誰にでもできるスポーツ教室を開催します。</p> <p>2 長期スポーツ教室 青少年の心身の健全育成を目的とした剣道・柔道教室を、年間を通して開催します。</p> <p>3 ジュニアスポーツ教室 小学生のスポーツへの関心をより高め、各種スポーツの紹介、体験を通して自身の適性を知り、興味や親しみを持ってもらうことを目的として開催します。</p> <p>4 障がいの有無や年齢・性別にかかわらず、誰でも楽しめるスポーツの教室等を開催します。</p>	○	各種スポーツ教室を通じ、特に小・中学生のスポーツへの意欲・関心を高め、スポーツへの興味や親しみを持ってもらうことができたため。
	社会教育課	98		<p>青梅市生涯学習推進市民会議企画講座</p> <p>・作業療法学生による認知症予防講座(95人)</p> <p>※括弧内は講座の延べ参加人数</p>	○	例年度同様、老化予防や健康に関係する運動講座を実施した。
	スポーツ推進課	99	各種体操教室	<p>【当日参加型教室】 ホップステップ体操、いきいき体操、はつらつ体操、シェイプアップ体操、のびのび体操ほか 延べ参加人数:13,170人(380回)</p> <p>【登録教室】 ママのための親子ヨガ、ママピラティス、太極拳、バドミントン、ジュニアフットサルほか 延べ参加人数:11,167人(1,129回)</p>	○	指定管理者の事業として実施し、効果的なスポーツ体験機会の提供を行うことができたため。
	スポーツ推進課	100	青梅マラソン大会	<p>スポーツを通じてボランティアをする機会を提供します。</p> <p>全国の市民ランナーと国内外の招待選手が青梅に集い、マラソンを通して選手と市民がスポーツ・文化交流を深めます。</p> <p>30キロの部、10キロの部</p>	○	前年度よりも参加定員を増やし、規模を拡大して実施。市民の体力・健康増進に寄与したほか、ボランティアマインドの醸成等にも繋がったため。
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	101	有酸素運動普及事業	<p>気軽にできるウォーキングや軽体操等の有酸素運動普及・促進に関する事業を開催し、市民の体力・健康の維持増進の取組への意欲向上に寄与します。</p>	○	市民がウォーキングをはじめるきっかけとなる機会を提供し、体力増進・健康維持に寄与することができたため。
	スポーツ推進課	102	スポーツ・レクリエーションフェスティバル	<p>スポーツ・レクリエーション活動を全市的な規模で実践する場を提供することにより、市民一人一人の活動への参加意欲を喚起し、生涯スポーツを振興します。</p>	○	雨天のために前年度よりも来場者数が減少したが、eスポーツやプロ選手による体験等の新しい要素を加えて実施し、生涯スポーツの入り口となるイベントとして実施することができたため。
	スポーツ推進課	103	市民体育大会	市民の体力づくりと技術の向上を図ることを目的として、青梅市体育協会に委託し、各種大会を実施します。	○	一部競技において障がい者の部を新設するなど、広く市民に開かれた大会として実施し、スポーツに取り組むきっかけを提供することができたため。
	スポーツ推進課	104	奥多摩渓谷駅伝競走大会	80回を超える歴史と伝統を誇る大会で、200チーム以上が冬の奥多摩路を疾走します。	○	小中学生の部も含め、前年度参加チームを上回る規模で実施することができたため。
	スポーツ推進課	105	屋内温水プール開放事業	市内にある民間温水プールを借り上げ、年間を通じた市民の健康・体力づくりの場として提供します。	○	これまでの日曜日開放に加え、特定の祝日にも開放を行い、市民の健康・体力づくりの場を提供することができたため。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	社会教育課・スポーツ推進課	106 東京2020大会に向けた気運醸成事業	2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、スポーツを始め文化、教育、国際交流など幅広い分野で様々な取組を進め、大会気運の醸成を図る。	<p>【スポーツ推進課】 東京オリンピック・パラリンピックレガシー事業として、カヌー体験・カヌー大会観戦を実施した。 多摩川等の自然を有する青梅ならではのスポーツを中心的に、今後もカヌーをはじめとしたスポーツの体験機会を設けていきたい。</p> <p>青梅×オリンピック・レガシー事業～カヌーを見て、聞いて、体験しよう！～ ①カヌー体験会 実施日：9月2日、3日 会場：東原公園水泳場 参加者数：94人 ②カヌー競技観戦ツアー 実施日：10月28日 会場：カヌー・スラロームセンター 参加者数：5人</p> <p>【社会教育課】 ・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業（文化ワークショップ）(245人) ①ユニサイクルサークルスコメディーショー ②～絵の具とたわむれよう！～アクションペインティングの手法を使って表現 ③文化もスポーツも楽しもう！「青梅カルタ」「プロジェクトアドベンチャー」</p> <p>・オリンピック・パラリンピック文化レガシー事業（文化キャラバン）(98人) かんかんみゅーじっく！－空きかんで楽器をつくって演奏しよう！－</p>	○	<p>【スポーツ推進課】 体験会と競技観戦を通じて、オリンピック・パラリンピックの競技種目でもあるカヌーの魅力や可能性について、市民が知る良い機会を提供することができたため。</p> <p>【社会教育課】 スポーツ推進課と協力して、「スポーツDAY青梅2023」の中で文化体験ワークショップ等を実施することで、文化の素晴らしさをアピール出来た。また、文化キャラバンでは、過去に開催したことのない地域で実施することができた。</p>
(5) 蓼らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	107 広聴活動	市政に関する要望、意見、提案等を寄せていただき、市民参画によるまちづくりを進めるために役立てます。	<p>市長への手紙の受付ボックスを市内の公共施設等に設置し、また市ホームページのメール版市民の声の投稿フォームからいつでも市民の声を聴けるようにするとともに、要望書についても、随時受付を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長への手紙 137件 ・メール版市民の声 753件 ・要望書 82件 	○	市政に関する要望、意見等に対し、なるべく迅速に回答するよう努力している。 いただいた要望等は、今後の市政運営に役立てている。
	交通政策課	108 交通公園日曜映画教室	楽しみながら交通安全の知識が得られるように、幼児から親子を対象に交通安全の講話と映画上映を毎週日曜日に実施します。	交通公園の建物は、耐震性がないとの指摘を受けているため、建物2階を使った映画上映や講習会は、令和4年度同様実施していない。	—	交通公園の建物は、耐震性がないとの指摘を受けているため。
	交通政策課	109 交通公園交通安全教室	楽しみながら安全な歩行や自転車利用法、交通マナーが習得できるように、保育園児や幼稚園児、小学生、高齢者を対象に交通公園で随時実施します。	参加人数内訳 小学生：965人（3年生、自転車免許証交付 917人） 幼稚園、保育所（交通安全教室）：419人 その他：148人（交通少年団、青峰学園等）	○	青梅警察署を始めとする各種関係団体と協力し、市内の小学校3年生を対象とした自転車運転免許証交付事業を実施しするとともに、幼稚園、保育園、希望校（3年生以外）、希望団体等を対象とした交通安全教室も随時実施し、交通ルール、マナーの啓発に務めた。
交通政策課	110 交通安全講習会	青梅警察署および青梅交通安全協会と連携し、一般市民を対象に市内12か所の会場で、交通安全講話と交通事故防止目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。春・秋の交通安全運動に先がけて、各12日間実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の交通安全講習会 令和5年8月19日～9月1日 12会場 受講人数 197人 ・春の交通安全講習会 令和6年3月2日～3月21日 12会場 受講人数 260人 	○	令和4年秋はコロナの影響により、交通安全講習会を開催できなかったが、令和5年度は、春・秋の交通安全運動に先駆けて、それぞれ市内12か所の会場で、一般市民を対象に、交通安全に関する講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚を図ることができた。	
交通政策課	111 セーフティ教室（交通事故再現方式）	交通事故再現方式による自転車安全教育を中学校において行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。	霞台中学校（令和5年10月17日） 参加生徒数：364人 西中学校（令和5年10月30日） 参加生徒数：223人 第六・第七中学校（令和6年1月12日） 参加生徒数：65人	○	交通事故の衝撃や怖さを実感することにより、交通安全意識の高揚、自転車走行ルール・マナーの向上を図ることができた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（5）暮らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	112 専門相談事業	専門相談員による各種専門相談(法律相談、人権身の上相談、行政相談、交通事故相談、登記相談、相続・遺言等暮らしの手続き相談)を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・法律相談 (相談内容) 土地家屋の賃貸借、相続、離婚、債権債務、損害賠償など (相談回数) 80回 (相談件数)457件 (相談員) 弁護士 ・交通事故相談 (相談内容) 交通事故による損害賠償問題、示談および保険手続きなど (相談回数) 20回 (相談件数) 34件 (相談員) 弁護士 ・登記相談 (相談内容) 土地・家屋の不動産や法人登記および境界に関すること (相談回数) 12回 (相談件数) 64件 (相談員) 司法書士、土地家屋調査士 ・身の上相談 (相談内容) 家庭や身の上の悩み事、職場の差別やプライバシー侵害など (相談回数) 14回 (相談件数) 34件 (相談員) 人権擁護委員 ・行政相談 (相談内容) 国の行政機関や政令で定める法人の業務に対する苦情や要望など (相談回数) 14回 (相談件数) 14件 (相談員) 行政相談委員 ・相続遺言等暮らしの手続き相談 (相談内容) 相続に関する遺産分割協議書、遺言書等の書き方や手続きに関すること (相談回数) 12回 (相談件数) 118件 (相談員) 行政書士 	○	専門相談員による各種専門相談を実施し、市民からの相談に対し、解決等に向けての助言を行った。
	市民安全課	113 パネル展(消費者知識習得・被害防止)	消費者知識の習得と消費者被害防止を図るため、パネル展示やパンフレット等の配布により啓発を行います。	市役所エントランスロビーにおいて、悪質商法の手口等を紹介したパネル展示を3回実施したほか、6月6日には河辺駅周辺で消費者被害防止啓発キャンペーン実施し、啓発物等を配布したほか、10月29日には、市民のくらし展においてパネル展示、啓発用物品の配布などを行った。	○	市役所エントランスホールでのパネル展示および敬老会の会場においてパンフレット配布等を行ったことにより、悪質商法をはじめとする消費者トラブルの事例と対処法についての啓発を行うことができた。
	市民安全課	114 消費者相談	契約上のトラブル、欠陥商品による被害を受けた場合などの相談を受けることで、相談者に消費生活上の知識を広げていただきます。 週5日(開庁日全日)	消費者相談は、開庁日に実施し、毎月第2・第4火曜日については、午後6時まで相談時間を延長した。 令和5年度相談件数:936件	○	相談を受ける際には、トラブルの解決はもとより、トラブルを回避するための心構えや対処法などを情報提供できた。
	市民安全課	115 消費生活講座等	消費者問題や日常の生活に役立つ身近なテーマを取り上げ、開催します。	消費者講座・啓発事業等(生活知識に関するもの5事業:315人、食に関するもの1事業:11人、計6事業開催し326人が受講した。	○	生活の中で身近な消費者に関する題材等をテーマに講座を行い、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加、受講があり、啓発ができた。
	市民安全課	116 市民のくらし展	市民生活に関する情報発信やコミュニティの大切さを啓発するため実施します。 年1回	市役所会議室において市民のくらし展を実施し、消費者・人権・行政相談を啓発するパネル展を実施した。また、特設消費者相談・行政相談等を実施した。	○	産業観光まつりの会場で実施することにより、多くの来場者に消費者被害の実態や人権に関する啓発を行うとともに、特設の消費者相談や行政相談により、制度の案内をすることができた。
	環境政策課	117 環境月間	環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため、各種の啓発を行います。	・6月の環境月間の期間中、おうめ環境フェスタの一環として、市役所1階において市民団体のパネル展示と、中央図書館において環境関連図書コーナーを設置した。	○	市民団体と協議を重ねて、お互いに満足のいく事業を実施できた。
	環境政策課	118 親水事業	市民団体等と協働で、事業体験型や学習型の親水事業を実施します。	おうめ水辺の楽校運営協議会構成団体と協働で、小中学生を対象とした親水事業を7回実施。のべ参加者382名(保護者含む)。	○	R4年度は感染症が拡大したため、夏期実施予定の2事業が中止となつたが、R5年度については、全ての事業を実施することができた。
	環境政策課	119 ヤマメの飼育体験教室	市内小学生がヤマメのふ化から放流までを体験することにより、自然の大切さや生命の尊さを知るとともに、青梅の身近な河川に親しむ場を提供します。	発眼卵配布 ・第二小学校(11月7日、81人)→3月11日稚魚放流 ・第六小学校(11月7日、86人)→3月6日稚魚放流 ・第七小学校(11月8日、99人)→3月11日稚魚放流 ・友田小学校(11月8日、53人)→3月6日稚魚放流	○	参加児童には発眼卵のふ化から成長までお世話をしながら観察することを通して、自然の大切さや生命の尊さについて考えてもらう機会になったと考える。
	環境政策課	120 動物愛護週間	市内のボランティア団体と協働で、動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めてもらうための各種啓発活動を行います。	9/20~9/26に「動物愛護週間イベント in おうめ」でパネル展示を実施した。また、動物愛護週間に近い日付の9/18に地域猫活動に関する講演会を実施した。	○	講演会の実施およびパネル展示により、市民に対する動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めてもらうことができたと考えられる。
清掃リサイクル課	121 フードドライブ	食品ロス対策の啓発として、家庭で余っている食べ物をお持ちいただき、集められた食べ物をフードバンク等に寄付する活動です。	窓口での常時受付、各種イベント(お~ちゃんフェスタ、産業観光まつり)で受付をし、例年以上の回収量となった。 集められた食品は、市内こども食堂や福祉事務所等に食品提供をしているフードバンク青梅に寄付した。 R5実績:193件 1696.6kg R4実績:232件 1215.1kg	○	フードドライブにより、ごみ減量および食品ロス削減を図ることができた。また、実際に寄付いただくだけでなく、電話での問い合わせも多数あり、回収量も増加していることから、市民へ周知されてきていることが伺えた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（5）暮らしやすい環境のための学習機会の充実	清掃リサイクル課	122 ごみ処理施設見学会	市民のリサイクル意識の高揚と啓発のため、リサイクル製品再生工場等の施設見学会を実施します。	10月2日 西多摩衛生組合、つるつる温泉、東京たま広域資源循環組合の二ツ塚処分場およびエコセメント化施設 27人 1月18日 リサイクルセンター、(株)エフピコ 関東リサイクル工場見学会、37人 合計 64人	○	処理施設で収集から再資源化までの流れを実際に見学していただき、循環型社会について理解していただくとともに、リサイクル意識の高揚が図られた。
	清掃リサイクル課	123 市内一斉美化デー	ごみ減量の啓発および地域の環境美化向上のため、環境美化委員の協力により各地域の美化活動を行います。年2回	市内一斉美化デーを、5月7日と12月10日を中心として各地区ごとに実施し、5月が819人、12月が934人、延べ1,753人が参加した。	○	環境美化委員連合会を中心に、市内全域で多くの市民の協力により美化活動が行われると同時に、環境美化の意識の高揚が図られた。
	清掃リサイクル課	124 小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ボスター＆キャッチフレーズコンクール	社会問題になっているごみ問題について、その減量化や資源化の大切さを個々に考えてもらうよう、啓発を行います。	ボスター部門は小学校9校から75点の応募、キャッチフレーズ部門は小学校12校から147点の応募があり、10月3日に審査会、10月29日に表彰式を行った。入賞作品はホームページへ掲載した他、市役所1階に展示し、金賞および最優秀賞作品は令和6年度資源物・ごみ収集カレンダーの表紙に使用した。	○	学校の協力等により多くの児童にごみ減量や資源リサイクルについて考えてもらう機会となった。 また、入賞作品等を使用して、市民へのごみの減量化や資源化について啓発を行うことができた。
	清掃リサイクル課	125 ごみ減量講座	資源循環型社会の目的理解と、ごみ減量を目指した学習を通して、ごみ問題についての啓発を行います。	ごみ減量をテーマに、市民・環境美化委員を対象にごみ減量講演会(1回)を行い、また、市内小学校および各種団体の要請に基づき、ごみ減量をテーマに生涯学習まちづくり出前講座を7回行い、ごみ減量の意識向上を図った。	○	ごみ減量講演会に69名、出前講座に465名の多くの市民が参加し、ごみ減量等の意識の向上が図れた。
	梅の里再生担当	126 梅の里再生に関する学びの機会の提供	ウメ輪紋ウイルス被害からの梅の里の再生・復興に関し、地域の子供たちや市民に対し、学びの機会を提供します。また、教育機関と連携し、児童・生徒等に梅に関する体験の機会を提供します。	令和3年度にウメ輪紋ウイルスによる被害からの梅の里再生への取り組みを映像化し、DVDとして作成した。 令和5年度は都立多摩高校に貸し出しを行った。 次年度目標 引き続き、資料・教材として貸出していく。	○	梅の里再生・復興について、高校生が学ぶ機会を提供することができた。
	社会教育課	127 むらしやすい環境のための教室・講座の企画	日常生活や環境を考え、暮らしに役立つ工夫やヒントを得る機会としての教室・講座を開催します。	農業・食育体験教室(全9回) 延べ参加人数 478人 合計 1講座	○	暮らしやすい環境のための教室・講座として、1講座を実施した。
	清掃リサイクル課	128 護美拾い合戦	「ごみ拾い」に「スポーツ」の要素を加え、健康増進と環境美化の推進を図る護美拾い合戦など、多目的な取組を行います。	実施なし。	一	事業終了
	スポーツ推進課	129		実施なし	一	護美拾い合戦については事業終了。今後も環境美化の推進を図るための取組を行っていく。

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（1）地域コミュニティ活動への支援	企画政策課	130 ぶらっとフォーム推進ワークショップ	「第六次青梅市総合長期計画」に位置づけたまちの将来像を実現するため、多様な主体の参画・連携・協働により、魅力的なまちづくりを目指す「施策運動型のしくみ」を推進するため、対話の手法を取り入れたワークショップを開催します。	「第6次青梅市総合長期計画」が令和4年度末で終了となつたことによる事業終了。	—	
	防災課	131 総合防災訓練	大地震による震災を想定した各種訓練のほか、避難訓練、初期消火訓練など住民参加型の訓練も実施し、防災意識の高揚を図り、防災知識や体験を深め、助け合い、協力し合う自主防災まちづくりを目指します。	新型コロナウイルス感染症感染防止対策をしたうえで、市および関係防災機関、市民等が一体となり、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた防災訓練を行った。令和6年度以降も、同様の訓練を行っていく。	○	新型コロナウイルス感染症対策用に備蓄したテントや段ボールベッドを使用した避難所の開設訓練を実施することができたため。
	防災課	132 防災ハンドブックの更新・配布	市民への防災知識の普及および啓発のため、平成27年3月に配布した防災ハンドブックを更新し、配布します。市民の自助・共助の精神を養い、災害に対応できるよう支援します。	令和元年度に更新し全戸配布済み。 転入者への配布等については、継続して実施した。 令和6年度については、令和7年3月頃に更新したものを作成予定	○	令和元年度に全戸配布は終了しているが、転入者には継続して配布を行っているため。
	市民活動推進課	133 市民活動災害補償制度	市民活動団体等が、活動中に不測の事故により、参加者や第三者に損害を与えた、法律上の損害賠償責任を負うことになった場合または参加者が負傷等された場合に保険で補償する制度を実施します。	・市民活動災害補償制度取扱要綱にもとづき、保険請求に係る事務手続きを行った。(市民活動推進係) 受付件数 傷害補償 8件 賠償責任補償 2件 合計 10件	○	自治会をはじめNPO・ボランティア団体など市民活動団体の活動に関して、その活動が安全・安心に行えるように市が切れ目なく保険に加入し、市ホームページでの周知や自治会支会長会議およびボランティア団体連絡会等でパンフレットの配布を行い、制度について認知され活用されているため。
	市民センター	134 自主学習グループ支援	自主グループが学習活動を継続できるよう、活動場所や資料作成のための印刷機などを提供するほか、日ごろの活動成果の発表の場として、市民センター・文化祭などを開催します。	・自主グループの活動場所として、会場や印刷機の貸出を行った。(各市民センター) ・(梅郷C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭を実行委員会とともに計画し、梅郷地区文化祭(11月5日、約600人参加)を開催した。 ・(沢井C)自主活動グループや地域住民等が日頃の活動成果を発表する場として、市民センターにおいて三田地区総合文化祭を開催し、565人の来場者を得た。 次年度も市民センターを活動の場とする自主グループへの支援や発表の場としての当該文化祭の開催を予定する。 ・(小曾木C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として、小曾木っ子まつりとの合同開催で文化祭実行委員会とともに計画し、小曾木地区文化祭(11月18・19日、約560人参加)を開催した。 ・(東青梅C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭実行委員会とともに計画し、東青梅市民センター・コミュニティ文化祭(10月14・15日、1,750人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(新町C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭を実行委員会とともに計画し、新町末広町地区市民文化祭(11月4・5日、775人参加)を開催した。 ・(河辺C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭を実行委員会とともに計画し、河辺市民センター文化祭(10月22・23日、1,073人参加)を開催した。 ・(青梅C)自主活動グループの日頃の活動発表と文化交流の場として、S&DたまごーセンターあそびばART2023を、社会教育課・同実行委員会と共催で開催した。(11/25・26、延べ1,135人参加) ・【今井C】今井市民センターを利用している各自主グループの活動状況を展示、披露する文化展を開催した(10/28、29の2日間)。 ・(大門C)自主活動グループの日頃の活動発表と文化交流の場として 大門市民センター文化展(11月18・19日、515人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。 ・(長瀬C)自主活動グループの日頃の活動発表の場として文化祭実行委員会とともに計画し、長瀬地区文化祭(11月4・5日、1,377人参加)をコロナウイルス感染症を考慮した形で開催した。	○	自主グループの活動場所として、会場や印刷機の貸出を継続した。また、活動発表の場として文化祭を開催した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	市民センター	135 支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	地域活動がスムーズに行われるよう、地域に密着した施設として、会場や備品・用具の提供などにより、地域活動が発展するよう応援します。地区運動会、各種スポーツ大会、講演会、研修旅行、総会・役員会など	・地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また、地域に密着した施設として、活動の支援および会議等の会場、備品、用具の提供などの面での地域活動発展へ支援体制を整えた。(各市民センター) ・地区運動会等の地域行事および各団体の総会、役員会開催のほか、高齢者団体等の地域活動への積極的な支援を継続した。(各市民センター) ・(小曾木C)地区運動会から気軽に参加・体験型イベントの小曾木スパレクフェスタ(10月8日、約400人参加)を開催した。	○	地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また、地域に密着した施設として、会議等活動の支援および会場、備品、用具の提供などの面での地域活動発展への支援した。
	清掃リサイクル課	136 環境美化大会	ごみ減量を中心に、市の環境衛生美化推進のため、環境衛生・美化善行者、優良団体等の表彰を行った。		○	美化活動およびごみ減量にご尽力いただいた市民および団体を表彰し、地域における市民活動を支援した。
	清掃リサイクル課	137 資源回収の奨励	自治会、子ども会等の地域活動の一環として、資源のリサイクルの必要性を認識し、リサイクルの促進に取り組み、ごみ減量を図ります。	156団体が実施。 資源回収量は2,441,438kg。 報償金27,869,875円、特別報償金2,851,124円を交付した。	○	多くの団体が資源回収に取り組んだことで、ごみの減量や資源の有効利用の推進、地域コミュニティづくりが図れた。
	スポーツ推進課	138 地区市民運動会等支援	青梅市自治会連合会の各支会、地区体育振興会、三団地連絡協議会等に対し、地区市民運動会等交付金を交付し、地区体育の振興とコミュニティの醸成を図ります。	令和2年度より市民活動推進課の自治会振興交付金に統合したため、スポーツ推進課の対応なし。	—	事業終了
	社会教育課	139 総合文化祭	青梅市文化団体連盟との共催により、市民の日ごろの学習成果発表の場として、各参加団体の舞台発表や作品展示等の総合文化祭を開催します。	期間:10/1~11/19 参加団体:20団体 観覧者(参加者含む):5,109人 地域住民の文化活動の発表、展示の場として、総合文化祭を実施し、文化活動の発展に寄与する。	○	青梅市文化団体連盟と共催して、総合文化祭を完遂したため。
	青梅市立第一中学校	140 クリーン活動	青梅大祭後の青梅の町を清掃する。生徒会を中心、ボランティアを募って実施する。生徒の自主参加による活動。	青梅大祭翌日の5月4日(木)、生徒22名と教職員11名でクリーン活動に取り組んだ。実行委員会から割り当てられた場所である青梅駅前ロータリー周辺を約1時間にわたってごみ拾いした。 次年度もボランティア活動の更なる活性化を図り、より一層多くの生徒が参加できるようにしたい。	◎	第一中学校では「振る舞い輝く！一中生」をスローガンに掲げ、「見返りを求めず、自分を高めるボランティア活動」を特色ある教育活動の柱の一つとしている。 コロナ禍を経て、4年ぶりとなる活動であったが、20名を超える生徒の自主的な参加があった。
	青梅市立第一中学校	141 多摩川1万人清掃活動	PTAを中心に、生徒に呼びかけて「多摩川1万人清掃」への自主参加を促し、清掃活動を行います。	8月6日(日)、生徒11名と教職員2名が参加した。釜の淵河川敷を約1時間にわたってごみ拾いした。 次年度もボランティア活動の更なる活性化を図り、より一層多くの生徒が参加できるようにしたい。	○	生徒にとっては夏休み期間中であったが、自主的に参加できた。 引き続きボランティア活動を通して、地域貢献の心と自己肯定感を育んでいく。
	青梅市立第二中学校	142 地域防災訓練	各自治会単位で行われる地域防災訓練に生徒が参加し、地域の防災意識を高めます。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】中学生として、また地域の一員として防災訓練に参加し、地域防災の意識を高める。	—	中止のため評価不能。
	青梅市立第二中学校	143 地域清掃	学校周辺を含め地域を回り、ゴミを回収し美化活動に取り組みます。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】中学生として、また地域の一員として地域美化に取り組む。	—	中止のため評価不能。
	青梅市立第二中学校	144 自治会運動会への参加	吹奏楽部が地域の自治会の運動会に参加し、演奏を行い地域との交流を図ります。	地域の文化祭で演奏を行い、地域の方々との交流をした。 【次年度】吹奏楽部が地域貢献の一環として、可能な範囲で演奏に参加する。	○	感染症対策が緩和され、多くの地域の方々に演奏を聞いてもらうことができたと同時に、生徒たちが文化祭に参加することで、地域との交流を図ることができた。
	青梅市立第二中学校	145 多摩川1万人の清掃大会への参加	身近の多摩川を自治会と協力し、清掃活動へ参加することで郷土愛や地域とのコミュニケーションを図ります。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。 【次年度】中学生として、また地域の一員として地域美化に取り組む。	—	中止のため評価不能。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（2）地域人材の育成と活用	防災課	146 防災リーダーの育成	自主防災組織の主体的な活動の要となる防災リーダーについて、計画的な育成を図ります。	昨年に引き続き、7月に防災士情報連絡会を実施し、これまでの防災士としての活動内容の発表や、防災士同士のディスカッションを行い、防災士同士の情報共有や交流を深めました。 また、3月には外部講師を迎えて、防災リーダー講習会（外部講師による講演、応急救護訓練）を実施し、知識と技術を習得しました。 次年度以降も、連絡会および講習会により防災リーダーの育成を図っていく。	○	どちらの会も参加者の満足度が高く、防災リーダーの育成が計れたため。
	市民センター	147 子ども会ジュニアリーダー講習会	子ども会の最上級生となる小学校6年生を対象に、子ども会リーダーのあり方や行事計画の立て方、ゲーム指導などの講習会を行い、下級生の面倒を見ながら、子ども会活動ができるようにします。	・（東青梅C）青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業として「Challenge!!スポーツゴミ2023」を実施し、33名の参加があつた。 ・（新町C）青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業として「ジュニアリーダー講習会」を実施し、10名の参加があつた。	○	・（東青梅C）子ども会からの参加が多く、異なる学年で関わりながら活動を行うことができた。 ・（新町C）各学校の異なる学年で協力しあいながら活動を行うことができた。
	市民センター	148 子ども会育成指導者講習会	子ども会育成会役員などを対象に、子ども会活動のあり方や運営のポイント、レクリエーションのポイント等について研修会を行い、地域子ども会活動の活性化を図ります。	実施なし。	—	
	市民センター	149 地域の特性を生かした事業	各市民センターにおいて、その地域の特性を生かした講座・教室などを実施します。	・（梅郷C）①「梅郷ほたるウォッチング」を開催し、座学の後、梅の公園で虫を鑑賞した。（6/23、30人参加） ②「梅郷子ふれあい塾」を開催し、梅郷地区の青少年に木工とボッチャの体験教室を行った。（9/30、34人参加） ③「健康教室やさしいヨガ教室」を開催した。（10/22、10人参加） ・（沢井C）①地域の高齢者を含む65歳以上の市民を対象に「らくらく健康体操教室」を開催し軽度な運動による健康づくりに取り組んだ（開催回数19回、延べ595人参加）。②地域自然にふれあう自然観察ハイキングを実施した（開催回数1回、12人参加）。③女性ヨガ教室を実施した（開催回数2回、延べ25人参加）。次年度もこれらの継続実施を予定する。 ・（長瀬C）地域人材を活用して「親子マジック体験教室」を開催した。（8/25、12/2、3/23、のべ58人参加） ・（小曾木C）地域人材を活用して「手打ちうどん・手打ちそば教室」を開催した。（7/7 9人、12/8、12人参加） ・（小曾木C）小曾木地区の青少年による「ほたるふやしたい実行委員会」において、初夏のホタルの保護と啓発活動を行った。（5/13～8/5、4回、延べ67人参加） ・（新町C）新町ウォーク（歴史講座）を開催し、青梅新町の歴史散歩をした。（11/25、13人参加） ・（新町C）新町ウォーク（野鳥講座）を開催し、新田山公園で野鳥観察をした。（2/11、19人参加） ・（河辺C）65歳以上の市民を対象に「のびのび健康体操教室」を開催した。参加人数：686人 ・（青梅C）地域人材を活用して青梅大祭に関する講座およびお囃子体験「江戸の祭り、青梅の祭り」を開催した。（11/23および26、延べ77人参加） ・（大門C）「素敵なお庭造り教室」「クリスマスリース教室」「苔玉作り教室」「地域散歩」を開催した。（6/21、11/7、12/5、2/21、3/23、延べ76人） （成木C）①一般市民を対象に「ハイキング教室」を開催し（開催回数2回、延べ21人参加）。②春休み親子料理教室を開催した（開催回数1回、12人参加）。	○	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と市民センターが連携協力し、子どもたちの健全育成に活用することができた。・（長瀬C・小曾木C・梅郷C） ・ハイキングなど地域の特性を生かし、概ね開催成果を得た。（沢井C） ・新町地区の魅力、特性を生かし、概ね開催成果を得た。（新町C）
	公園緑地課	150 緑地管理ボランティア	緑地管理ボランティアを対象に講習会を開催し、下草刈り等の緑地管理作業に必要な技術や知識を習得し、緑地の良好な環境を維持できる資質の向上を図ります。	●令和5年度取組状況 ①「大塚山いこいの森ボランティア」における「ネイチャーアラフト教室」の開催補助 1月20日（土） 市立第四小学校体育館（大塚山公園隣） 5名参加 ②意見交換会 3月1日（金） 青梅市役所206会議室 5名参加 ●次年度目標 本格的に活動を再開し、猛暑および寒冷期を避けた月1回ペースにて活動を実施する。	○	新型コロナウイルス感染拡大予防対策以降の活動方針を定めるため、ボランティア会員との意見交換会を実施するとともに、新規会員を募集し4名の新たな会員を加えるなど、新陳代謝を図った。
	高齢者支援課	151 介護予防リーダー養成講座	高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、自立した生活を送るために、介護予防について基本的な知識を身につけ、自分や家族、地域のために体操などを行う介護予防リーダーを養成します。	介護予防リーダー養成のための取り組みを下記のとおり実施した。 ・介護予防リーダー養成講座 全10回 14人（延べ124人） ・介護予防リーダーフォローアップ講座 全16回（延べ363人） ・介護予防リーダー交流会 全4回 71人 委託事業者：医療法人社団和風会 次年度についても事業を継続する。	○	介護予防リーダー養成講座を開催し、介護予防に関する知識の習得、地域や自宅で実践可能な体操の実践、自主グループ運営方法等について学ぶ機会および、住民主体の介護予防活動に向けた支援を行うことができた。今回は14名の参加者で13名のリーダーを養成が修了することができた。コロナ対策を行なながらリーダーフォローアップ、交流会を実施し、多くのリーダーに受講してもらうことが出来た。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（2）地域人材の育成と活用	高齢者支援課	152	シルバーマイスター制度	優れた技能、知識、経験等を有する高齢者をシルバーマイスターとして認定・登録し、市民の学習活動の講師や指導者として推薦します。（対象：65歳以上の方） マイスター認定者 18名 令和5年度認定者 1名 活動内容： 地域サロンにおいて、シルバーマイスターによるイベントを開催した。 次年度についても、引き続きシルバーマイスターの拡充に努めるとともに、より多くのシルバーマイスターの技能を披露する機会を提供していきたい。	○	新たに1名のシルバーマイスターを認定したこと に加えて、地域サロンにおいて、定期的にシルバーマイスターによる発表の場を設けることができた。
	シティプロモーション課	153	吹上しようぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	花しょうぶまつり・梅まつりの期間中に、市民によるボランティアの協力を得て、園内のガイドをしていただくとともに、自然に親しみ、人とのふれあいの場を提供するため、ガイドの募集・講習会を行います。 ・吹上花しょうぶまつり 吹上花しょうぶ公園ガイドボランティア (1)打合せ会を4月13日 (2)講習会を4月27日、5月16日、22日、23日に実施した。 (3)株分け講習会を7月4日、5日 (4)広報にてガイドボランティアの募集を行った。 次年度も継続してガイドボランティアの募集および実施をする。 ・吉野梅郷梅まつり 梅の公園ガイドボランティア (1)打合せ会を11月28日に実施した。 (2)講習会を2月8日、19日、28日に実施した。 (3)広報にてガイドボランティアの募集を行った。 次年度も継続してガイドボランティアの募集および実施をする。	○	梅の公園ガイドボランティアは、コロナ対策をした上で実施することができ、来園者およびガイドに好評だった。 吹上しようぶ公園ガイドボランティアは、コロナ対策をした上で実施することができ、来園者およびガイドにも喜ばれた。
	農林水産課	154	青梅市森林ボランティア育成講座	初心者・未経験者を対象に、下草刈り、枝打ち、間伐などの森林施業に必要な知識や技術習得の講義・実技指導を行い、森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成・組織化を図ります。 令和5年度(第13期)は、1年間で10回の講座を開催し、実践的な内容を中心に実施した。 第1回 5月20日 開講式、座学、森林散策 22人 第2回 6月10日 市場などの見学 25人 第3回 7月 8日 下草刈り、山割 22人 第4回 10月14日 山割、除伐 18人 第5回 11月11日 除伐、間伐 16人 第6回 11月25日 間伐、道の補修 13人 第7回 12月 9日 枝打ち、除草 16人 第8回 1月13日 間伐 17人 第9回 2月10日 間伐、倒木処理他 14人 第10回 3月 9日 地拵え、植林、閉講式 14人	○	毎回講座終了時に受講者に作業日誌を記入していただいているが、ほとんどの受講者から充実した内容であった旨の記入があり、一定の成果があったと考えられる。
	スポーツ推進課	155	スポーツ推進委員研修	スポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会を実施するとともに、東京都スポーツ推進委員協議会等が主催する研修への参加を促します。	○	各種研修会に積極的に参加し、効果的な委員の資質向上に繋げることができたため。
	社会教育課	156	青少年リーダー育成研修会事業	小学5年生から高校3年生までを対象に、異年齢集団による団体活動を通じて、自主性や社会性を養い、リーダーとしての資質の向上を図ります。 6月18日～8月27日 全6回 市役所、S&Dたまごセンター、沢井市民センターほか 延べ参加人数 198人 今後は、更なる自主性・社会性の養育に繋がる研修会の実施に努める。	○	班活動や青梅の地域資源を生かした活動を実施し、仲間との信頼関係を築くことや、自主性・社会性の養育を図った。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
	社会教育課	157 講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	地域の人材を発掘し、身に付けた知識・技術などを広げていくため、人材登録制度を実施し、地域の教育力の向上を図ります。活用を促進するため、ガイドブックを発行します。	教育委員会ホームページおよび窓口等にて情報提供しました。 個人 文化系 36人 体育系 6人 団体 文化系 1団体 地域の人材発掘のため広報による制度周知、募集等を行っていく。	○	制度周知、募集および登録者情報の更新を行った。
（2）地域人材の育成と活用	社会教育課	158 芸術文化奨励賞	青梅市の芸術文化の発展を願って、地域で活動されている芸術家の方を発掘し、表彰します。	・岩田睦子(書道) 第74回毎日書道展近代詩文書部秀作賞受賞 ・横戸京子(書道) 第74回毎日書道展近代詩文書部秀作賞受賞 ・金子真由香(書道) 第59回全日本書初め大展覧会中学校の部文部科学大臣賞受賞 ・蒲澤孝美(書道) 第74回毎日書道展大字書部秀作賞受賞 ・閑口美夢(書道) 第11回総合大会全国学生書写書道展文部科学大臣賞受賞 ・岩浪千智(絵本) 第18回家やまちの絵本コンクール国土交通大臣賞受賞 ・青梅市立第三小学校金管バンド部 第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会小学校部門最優秀賞受賞 ・青梅市立第二中学校吹奏楽部・青梅市立第六中学校吹奏楽部・青梅市立吹上中学校吹奏楽部(3校合同) 第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校S部門最優秀グランプリ賞・文部科学大臣賞受賞 ・青梅市立第三中学校吹奏楽部 第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校A部門優秀賞受賞 ・青梅市立泉中学校吹奏楽部 第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会中学校A部門優秀賞受賞 今後も芸術・文化活動に業績を上げた対象者の表彰を行っていく。	○	学校や文化団体へ、芸術文化奨励賞の周知を図るとともに、広報おうめ等を通じ、広く周知することができた。基金をもとに、受賞者には記念品を交付した。
	社会教育課(図書館)	159 おはなし学習会	おはなし(ストーリーテリング)の初心者で、市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、実践を含めた勉強会を実施します。	・初級おはなし学習会(活動予定者) 5月11日～12月14日 7回 延べ参加人数36人 6年度は、初級おはなし学習会を継続し、更に技術の向上を図りたい。	○	初めておはなし会ボランティアをしたい方を対象とした講習会を開催し、36人の参加を得た。
	社会教育課(図書館)	160 絵本のべんきょう会	市内でおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、絵本の読み聞かせの実践を含めた勉強会を実施します。	・絵本のべんきょう会 5月26日～3月8日 6回 延べ参加人数85人 6年度は、絵本のべんきょう会を継続し、更に技術の向上を図りたい。	○	絵本の読み聞かせボランティアを対象にした講習会を開催し、85人の参加を得た。
	商工業振興課・青梅商工会議所	161 合同企業説明会in青梅	『地学地就』(地元で学んで地元に就職する。)をテーマに、多摩地域の学生と、新卒採用する企業との出会いの場を提供します。	・令和5年6月8日に令和6年3月卒業見込の学生を対象に市内企業を中心とした合同企業説明会を実施した。	○	・参加者46人のうち4人が正式採用となった。

4 学習情報提供と学習相談の充実

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（1）学習情報提供の充実	秘書広報課	162 「広報おうめ」への行政情報等掲載	月2回発行する「広報おうめ」に行政情報等を掲載します。	毎月1日、15日を発行日とし、24回発行した。 市政情報等のほか、市民団体が開催するイベントや会員募集などについても掲載した。 引き続き、市政情報をはじめとする情報発信を行ってゆく。	○	市政情報等の情報発信の充実に努めた。
	秘書広報課	163 市ホームページへの行政情報等掲載	市ホームページに行政情報等を掲載します。	ホームページにより広く市の情報や魅力の発信を行った。 新型コロナウイルス感染症に関する各課から発信する情報を集約したページを作成し、知りたい情報をすぐに得られるよう配慮を行った。 引き続き、市政のあらゆる情報を掲載し、市民に必要な情報を提供してゆく。	○	市政情報等の情報発信の充実に努めた。
	情報システム課	164		秘書広報課へ移管。	—	
	防災課	165 土砂災害ハザードマップの作成	土砂災害ハザードマップを作成・配布し、危険区域の住民周知を行うとともに、土砂災害対応訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ります。	ハザードマップや危険区域については、地区の防災訓練への参加や出前講座を通して周知を図った。 令和5年度の土砂災害対応訓練は、東京消防庁第九消防方面本部と合同の土砂災害水防訓練を実施し、市民(自主防災組織)の防災知識の高揚を図ることができた。 次年度は、出前講座を実施するほか、新町地区で土砂災害水防訓練を実施し、市民(自主防災組織)の防災意識の向上を図る。	○	出前講座や訓練により、ハザードマップや危険区域の周知を図ることができたため。
	市民安全課	166 ジエンダー平等情報紙	市民の関心と理解を深めるため、ジエンダー平等情報紙「よつばの手紙」を年2回発行します。	市民等へのジエンダー平等の意識啓発のため、ジエンダー平等情報紙「よつばの手紙」を10月と3月にそれぞれ6,000部発行し、自治会の回覧および公共施設等へ配布した。 今後も、10月と3月に情報誌を発行していく。	○	情報紙は、市民が参画する編集委員会が企画・編集しており、毎号、記事内容、表紙などのさらなる充実に向けて話し合いながら取り組んでいる。
	市民センター	167 市民センターだよりの発行	市民センターで開催される事業や地域の色々な行事などの話題をお知らせします。	・支会や自治会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。(各市民センター) ・センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。(各市民センター)	○	ホームページによるお知らせとともに市民センターだよりを発行することにより、より幅広い市民への周知が図れた。 各自治会へ回覧するなどにより、ホームページの閲覧などパソコン操作が苦手な方などへも、一定の周知ができた。
	課税課	168 青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	西多摩地区税務協議会主催で、青梅税務署管内の小学5・6年生を対象に、書道作品の募集を行います。 厳正な審査を行い、入賞者を決定、入賞作品の展示会(イオンモール・合同庁舎)および表彰を行います。	青梅税務署管内小学5・6年生から3,399点の応募があった。なお、青梅市からは16校742点の応募があり、特選6点、準特選5点、金賞4点、銀賞8点、銅賞11点、佳作43点の計77点が入賞した。 また、特選入賞者に対しては、イオンモール日の出イオンホールにて表彰を行い、準特選以下の入賞作品とともに下記の日程で展示した。 ・11月8日～10日 イオンモール日の出イオンホール ・11月12日～15日 青梅合同庁舎 ・12月13日～27日 青梅市役所1階エントランスロビー 【次年度目標】 令和5年度同様に事業を実施することで、税に対する意識を高め、租税教育を推進する。	○	書道を通じて税に関する正しい知識の普及と意識の向上が図られ、租税教育の推進に寄与したと評価できるため。
	社会教育課	169 生涯学習だよりの発行	市の各種教室、講座、講演会、イベントや市民グループ・団体および西多摩の関係施設の生涯学習情報をまとめて提供し、市民の学習活動を応援します。 年4回発行(4月・7月・10月・1月)	生涯学習だよりの部数を各回1,200部、年4回発行した。また、教育委員会と市のホームページにも掲載した。 市内の団体等からの情報を収集しながら発行していく。	○	生涯学習だよりの部数を各回1,200部、年4回発行した。また、教育委員会と市のホームページにも掲載した。1月号からは横書きヘレイアウトを変更しより見やすい誌面にした。
	社会教育課	170 社会教育事業の学校への周知	市民センター等で実施する生涯学習事業を積極的に学校へ周知をします。	講座開催ごとに、小・中学校などにポスター・チラシを送付するほか、生涯学習だよりを配布して周知した。	○	講座によって全校配布を行うなど、チラシの配布方法や枚数を変更した。また、子ども向けの講座や講演会はWEBフォームを活用し保護者が申込みしやすくする工夫をした。
	社会教育課(図書館)	171 図書館報の発行	図書館の事業や新着図書を紹介する図書館報を発行します。	・図書館報 年6回発行 各回約100部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載 6年度は、内容の充実を図りたい。	○	2か月に1回の発行ペースで年6回発行し、図書館資料や事業を紹介することができた。
	社会教育課(図書館)	172 ブックリストの配布	幼稚・小学校(低・中・高学年別)および中・高等学校の児童・生徒に推薦図書リストを配布します。	・幼稚向けブックリストを市内幼稚園、幼稚園、保育所を中心し3,301部配布した。 ・小学校(低・中・高学年)向けブックリストを市内の小学校を中心し5,362部配布した。 ・中高生向けブックリストを市内中学校および高等学校に3,165部配布した。 6年度は、ブックリスト配布を継続する。	○	保育所や幼稚園、小中学校など市内全域の幼稚・児童・生徒にブックリスト配布し、図書や図書館を紹介し、読書啓発を行った。

施策の方向	担当課	事業名		事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（～1～） 提供の学習情報	社会教育課 (図書館)	173	分館図書館だよりの発行	新着図書を中心に、特集なども組んだりしながら、市民への推薦図書を楽しく紹介する、図書館だよりを発行します。	・分館図書館だより 毎月発行(年12回)・各回115部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載 6年度は、内容の充実を図りたい。	○	定期として毎月発行し、発行時期に応じた特集や新着図書を紹介することができた。
（～2～） 学習相談の充実	社会教育課	174	生涯学習相談	青梅市に登録された講師・指導者等の人材情報や生涯学習施設、講座・催し物、学習グループ等の情報にもとづいて学習相談を受け、市民の学習意欲が活動につながる相談体制を構築します。	教育委員会ホームページにて情報提供とともに、窓口や電話等による学習に関する相談を受けた。	○	相談内容に応じて、サークル紹介や講師紹介等を行った。

5 生涯学習推進体制の確立

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和5年度取組状況および次年度目標	担当課評価	評価理由
（1）推進体制づくり	職員課	175 職員研修受講支援	「青梅市生涯学習まちづくり出前講座」等の生涯学習の推進を図るため、職員の担当業務に必要な能力の向上や知識を得るための研修受講を支援していきます。	業務に必要な知識等の修得を図るため、東京都市町村職員研修所の実務研修に32名、東京都研修所等の公的機関が主催する研修に6名、その他各種研修機関が主催する研修に30名の職員を派遣した。 また、自己啓発学習を促す通信教育等を18名が受講した。 次年度も引き続き研修受講を支援していく。	○	令和5年度研修実施計画にもとづき、職層や経験年数に応じた研修に、効果的に職員を派遣することができたため。
	社会教育課	176 生涯学習推進本部	市長を本部長とする生涯学習推進本部（行政組織）で、生涯学習推進の目標・基本方針・推進計画を策定し、生涯学習推進施策を全局的に進めます。	・生涯学習推進本部会議開催数 3回 第1回開催日 6月15日 第2回開催日 10月31日 第3回開催日 1月30日 内容 出前講座の実施状況、新緑祭の開催について、第7次生涯学習推進計画の策定について等	○	生涯学習本部会議を3回実施し、各課で行う出前講座の実施状況や青梅市の生涯学習に関する報告等を行い、また、第7次生涯学習推進計画の策定について協議した。
	社会教育課	177 生涯学習推進市民会議	学識経験者や生涯学習関係団体の代表者等からなる市民組織。市民の声を聴きながら、市と市民の協働で生涯学習推進施策を進めます。また、生涯学習推進市民会議企画講座を実施します。	・生涯学習推進市民会議開催数 4回 ・生涯学習推進市民会議企画講座 7講座 延べ参加人数 422人	○	新緑祭の運営方法についての協議や市民会議企画講座の実施の促進等について話し合った。また、第7次生涯学習推進計画の策定について協議した。
（2）基盤づくり	社会教育課	178 市民企画講座の募集	市民ニーズに合った講座を生涯学習推進市民会議等から募集し、市内の施設で開催します。	・生涯学習推進市民会議企画講座 7講座 「苦を楽しもう」(13人) 「英語で料理教室」(35人) 「絵本の読み聞かせ & 演劇ワークショップ」(7組24人) 「作業療法学生による認知症予防講座」(96人) 「英語でクリスマスソングを歌おう」(34人) 「クリスマスジャーブレッドハウスをつくろう」(12組26人) 「米国空軍太平洋音楽隊春のロックバンドコンサート」(194人)	○	市民会議委員の企画により、7講座を開催した。
	社会教育課	179 アンケートの実施	講座や講演会の参加者にアンケートを実施し、市民の学習ニーズを把握します。	アンケート項目に今後参加したい内容を、過去のアンケートや実施内容から例を上げ、回答者が選択できるようにしたことにより、回答率が上がった。 アンケートの回答を講座や講演会のテーマ選びの参考とした。	○	参加者のニーズがより把握しやすくなった。
	社会教育課	180 学習支援体制の構築	より多くの市民が学習機会を得ることができるよう、保育付きの教室や手話通訳者を配置するなど、学習支援体制の構築を推進します。	対面での講座、オンラインの講座それぞれの特性を生かした講座を行いたい。	○	家庭教育講演会は、3回のうち2回で対面とオンラインでのライブ配信を同時に使うハイブリッド形式で開催し、会場を選択できるようにして参加しやすい環境を作った。

令和6年度
第六次青梅市生涯学習推進計画進捗状況報告書
(令和5年度分事業)

発行 青梅市生涯学習推進本部
編集 青梅市生涯学習推進本部事務局

青梅市教育委員会生涯学習部社会教育課
〒 198-8701 青梅市東青梅 1-11-1

